

**子育て支援に関するアンケート
報 告 書**

**平成 23 年 3 月
出 雲 市**

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	1
6. 調査対象者の属性	2
II 調査結果	5
1. 子どもの生活状況などについて	5
(1) 妊娠・出産した時の状況	5
(2) 乳幼児健診について	6
(3) 起床時刻	7
(4) 就寝時刻	8
(5) 朝食の状況	9
(6) アンケート記入者の朝食の状況	10
(7) テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間	10
(8) 子どものかかりつけ医の有無	11
(9) 「出雲休日診療所」の周知状況	12
(10) 心肺蘇生法（心臓マッサージ）の周知状況	13
(11) AED（自動体外式除細動器）の操作方法の周知状況	14
(12) 子育ての相談相手	15
(13) 子育てに自信が持てないこと	16
2. 子どもの読書習慣について	18
(1) 絵本の読み聞かせについて	18
(2) 絵本の読み聞かせの冊数	19
(3) ブックスタートでもらった絵本の利用について	20
(4) 本の読み聞かせについて	21
(5) 本の読み聞かせの冊数	22
(6) 子どもの1ヶ月の読書冊数	23
(7) 本の入手方法	24
(8) 出雲市立図書館（6館）の利用の有無	25
(9) 出雲市立図書館（6館）を利用しての感想	26
(10) 出雲市立図書館（6館）を利用しない理由	27
3. 放課後児童クラブの利用について	28
(1) 放課後児童クラブの利用意向	28
(2) 放課後児童クラブの小学校4年生以降の利用意向	28
4. 健康・体力づくりについて	29
(1) 定期的な運動の有無	29

5. 子どもへの虐待について	30
(1) 虐待に関する相談窓口の周知状況	30
(2) 虐待に関する相談窓口として知っている相談先	30
(3) 虐待が心配される際の通告義務の周知状況	31
6. 少子化対策のために必要なことについて	32
(1) 地域全体で子どもを育てられているという実感について	32
(2) 地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なこと	34
(3) 出生率が低下している原因について	35
(4) 晩婚化、非婚について	36
(5) 少子化に歯止めをかけるために必要な政策について	37
(6) 経済的支援策として望むもの	38
7. いきいきこどもプランの主な取り組みについて	39
(1) 子育て支援に関する取り組みの満足度と重要度	39

I 調査の概要

1. 調査の目的

「いきいきこどもプラン～いずも次世代育成支援行動計画」に基づき、安心して子どもを生まみ育てることができる環境づくりを一層効果的に進めるため、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 子どもの生活状況などについて
- (2) 子どもの読書週間について
- (3) いきいきこどもプランの主な取り組みについて
- (4) 少子化対策のために必要なことについて

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 出雲市全域
- (2) 調査対象 就学前または小学生の子どもがいる家庭 2,000 世帯
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 平成 22 年 12 月 18 日～平成 23 年 1 月 21 日

4. 回収結果

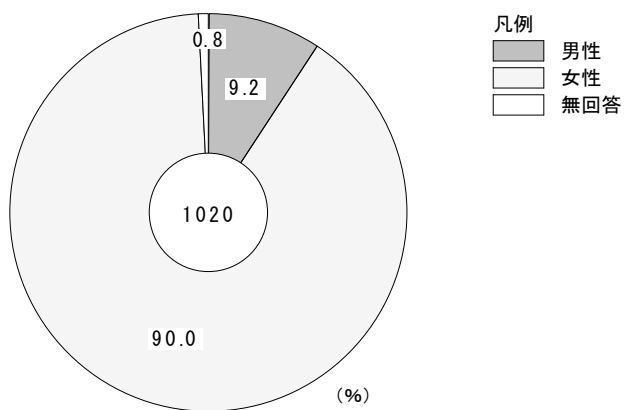
- (1) 標本数 2,000
- (2) 回収数 1,020 (有効回収数 51.0%)

5. 報告書の見方

- (1) 集計結果は全て、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、回答比率の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答の質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- (3) 回答比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。
- (4) グラフ中の数字について省略している場合がある。

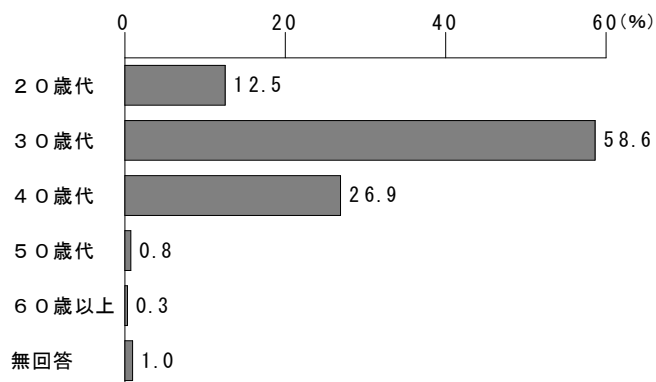
6. 調査対象者の属性

①回答者の性別



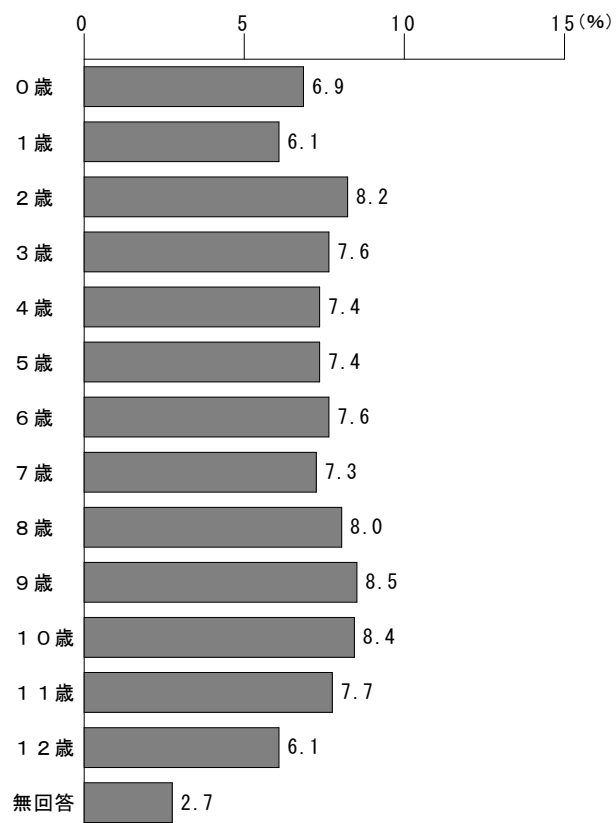
	人数(人)	比率 (%)
男性	94	9.2
女性	918	90.0
無回答	8	0.8
合計	1,020	100.0

②回答者の年齢



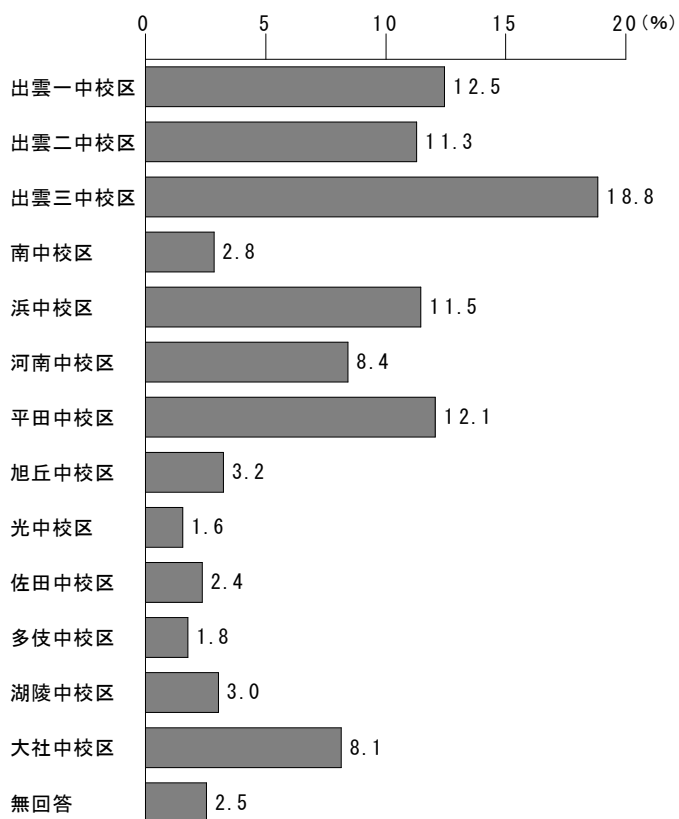
	人数(人)	比率 (%)
20歳代	127	12.5
30歳代	598	58.6
40歳代	274	26.9
50歳代	8	0.8
60歳以上	3	0.3
無回答	10	1.0
合計	1,020	100.0

③子どもの年齢



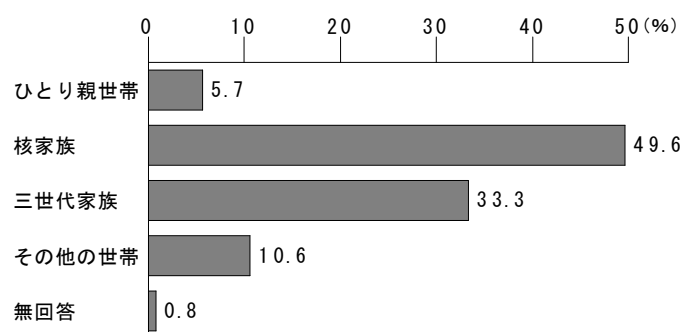
	人数(人)	比率 (%)
0歳	70	6.9
1歳	62	6.1
2歳	84	8.2
3歳	78	7.6
4歳	75	7.4
5歳	75	7.4
6歳	78	7.6
7歳	74	7.3
8歳	82	8.0
9歳	87	8.5
10歳	86	8.4
11歳	79	7.7
12歳	62	6.1
無回答	28	2.7
合計	1,020	100.0

④居住地域



	人数(人)	比率 (%)
出雲一中校区	127	12.5
出雲二中校区	115	11.3
出雲三中校区	192	18.8
南中校区	29	2.8
浜中校区	117	11.5
河南中校区	86	8.4
平田中校区	123	12.1
旭丘中校区	33	3.2
光中校区	16	1.6
佐田中校区	24	2.4
多伎中校区	18	1.8
湖陵中校区	31	3.0
大社中校区	83	8.1
無回答	26	2.5
合計	1,020	100.0

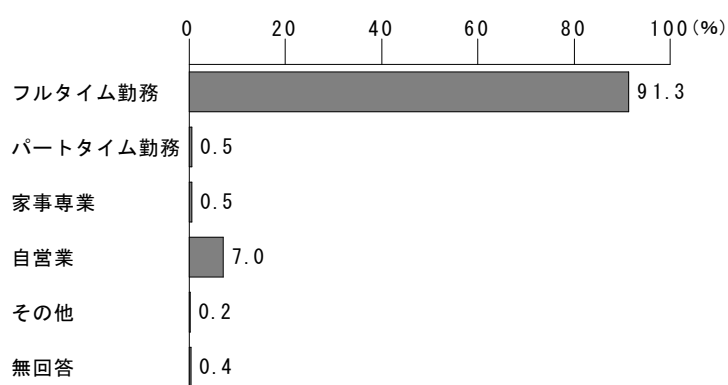
⑤家族構成



	人数(人)	比率 (%)
ひとり親世帯	58	5.7
核家族	506	49.6
三世代家族	340	33.3
その他の世帯	108	10.6
無回答	8	0.8
合計	1,020	100.0

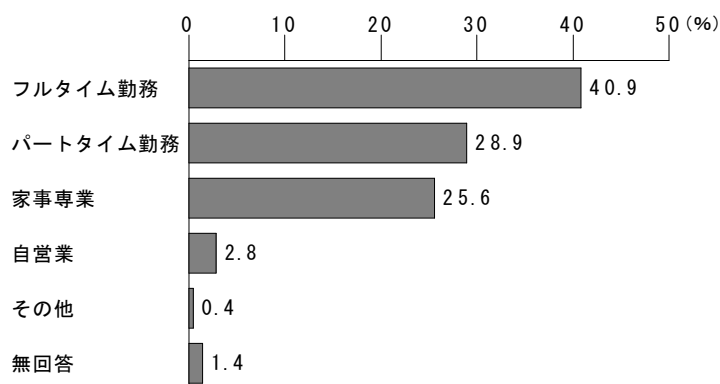
⑥保護者の就労形態

◆父親



	人数(人)	比率 (%)
フルタイム勤務	863	91.3
パートタイム勤務	5	0.5
家事専業	5	0.5
自営業	66	7.0
その他	2	0.2
無回答	4	0.4
合計	945	100.0

◆母親



	人数(人)	比率 (%)
フルタイム勤務	403	40.9
パートタイム勤務	285	28.9
家事専業	252	25.6
自営業	28	2.8
その他	4	0.4
無回答	14	1.4
合計	986	100.0

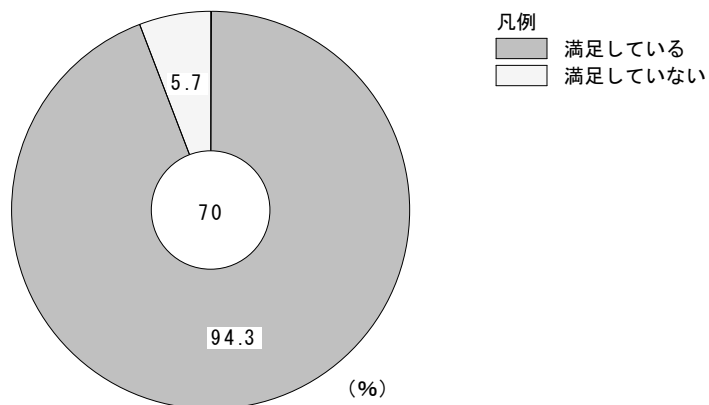
II 調査結果

1. 子どもの生活状況などについて

(1) 妊娠・出産した時の状況（1歳未満の子どもがいる保護者のみ回答）

妊娠・出産した時の状況について、「満足している」が94.3%、「満足していない」が5.7%で、「満足している」が「満足していない」を大きく上回っている。

【図 1-1 妊娠・出産した時の状況】

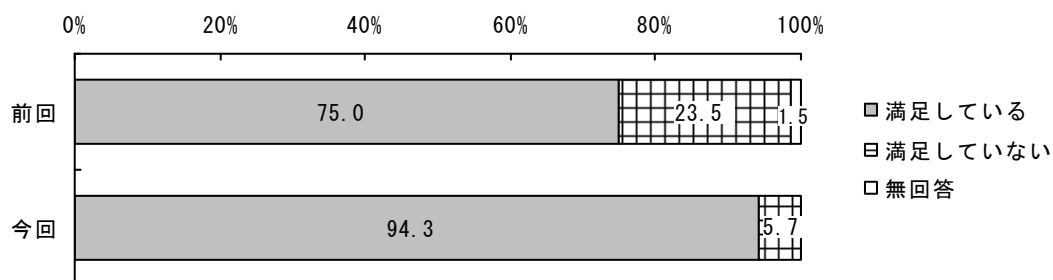


〈表 1-2 満足した理由〉

項目	回答人数
病院・産院の設備	52
病院・産院のスタッフ	51
配偶者・パートナーの援助や家族の協力	43
職場の理解や対応	31
妊娠・出産・育児についての不安への対応	23
母親（両親）学級	15
妊娠中の受動喫煙への配慮	5

前回調査との比較

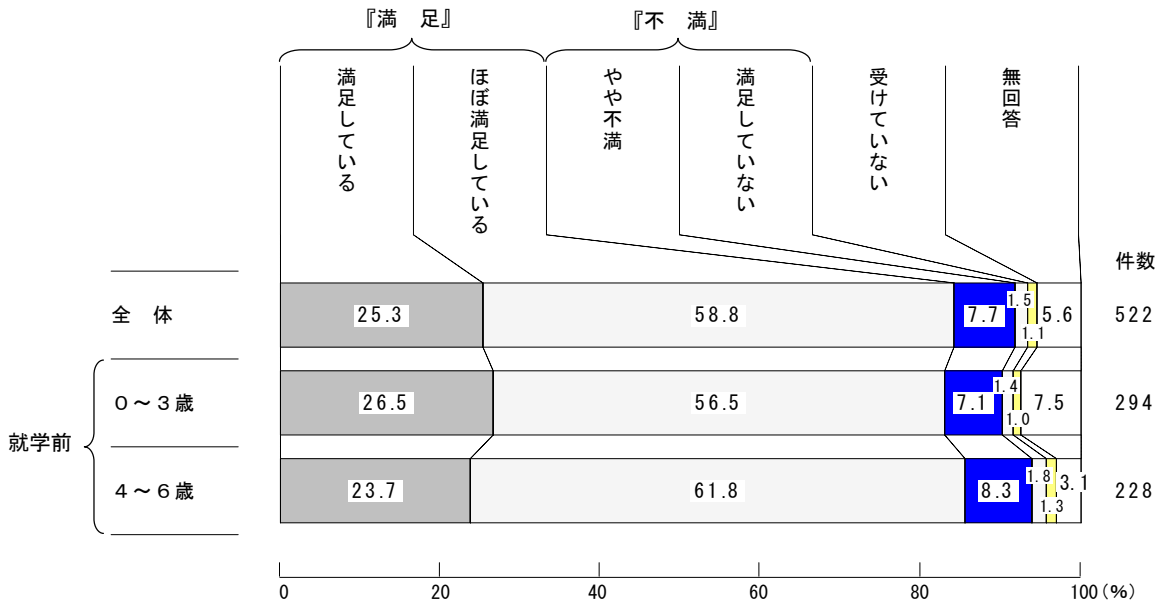
全体の回答について、「満足している」の割合は、前回の75.0%に対し今回は94.3%と19.3ポイント増加している。



(2) 乳幼児健診について（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

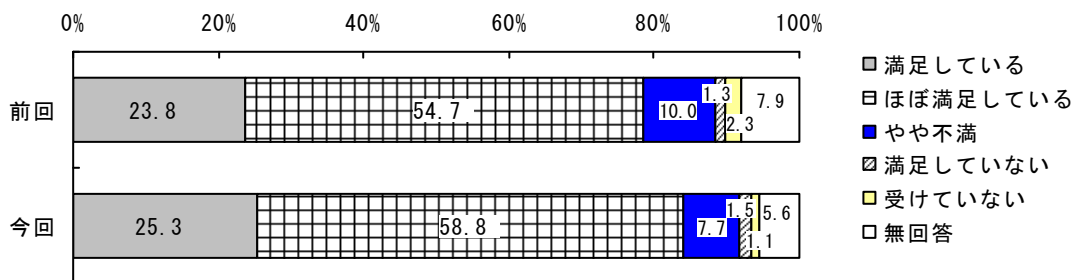
これまでに受けた乳幼児健診について、全体では「満足している」が 25.3%、「ほぼ満足している」が 58.8%と『満足』の割合が 8 割を超え高くなっている。一方、「やや不満」が 7.7%、「満足していない」が 1.5%と『不満』の割合は 9.2%で約 1 割となっている。

【図 1-3 乳幼児健診について】



前回調査との比較

全体の回答について、『満足』の割合は、前回は 78.5%、今回は 84.1%と 5.6 ポイント増加している。

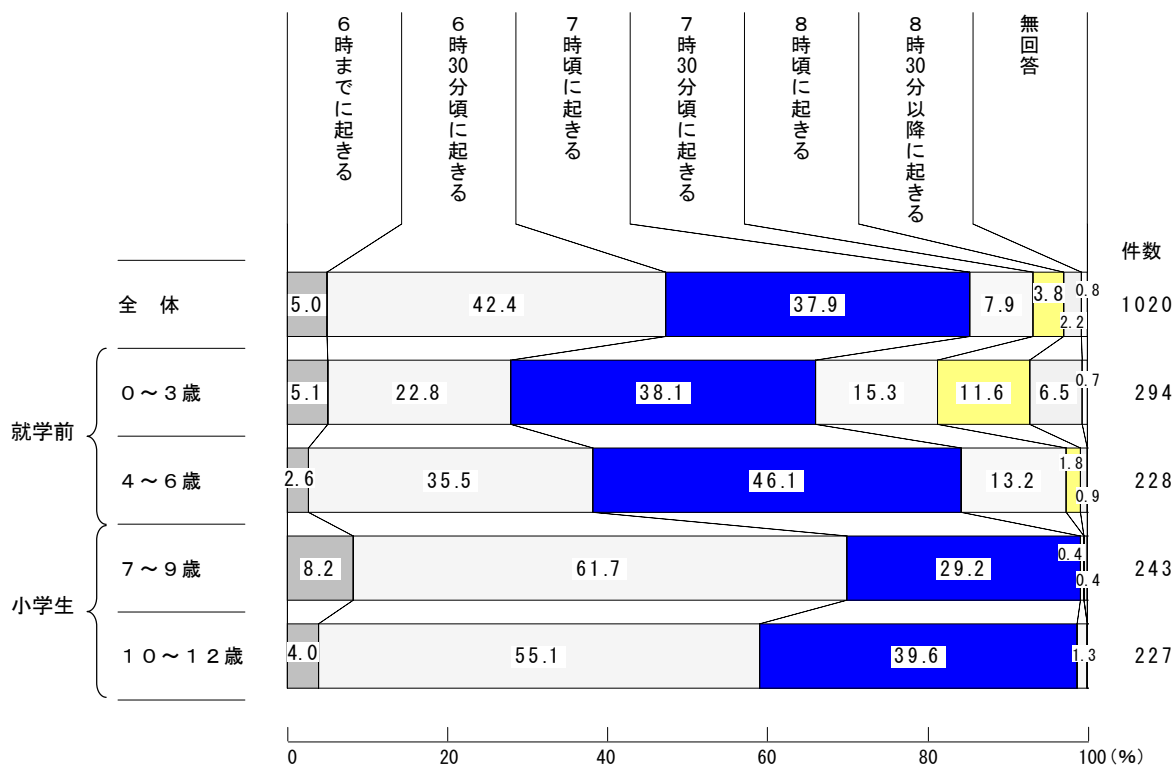


(3) 起床時刻

起床時刻について、全体では7時頃までに起きる子どもが85.3%、7時以降に起きる子どもが13.9%となっている。

子どもの年齢別にみると、小学生では、7時頃までに起きるといふ子どもが100.0%近くになっており、就学前の0～3歳では「8時頃に起きる」が11.6%と他の年齢に比べて高くなっている。

【図1-4 子どもの起床時刻】

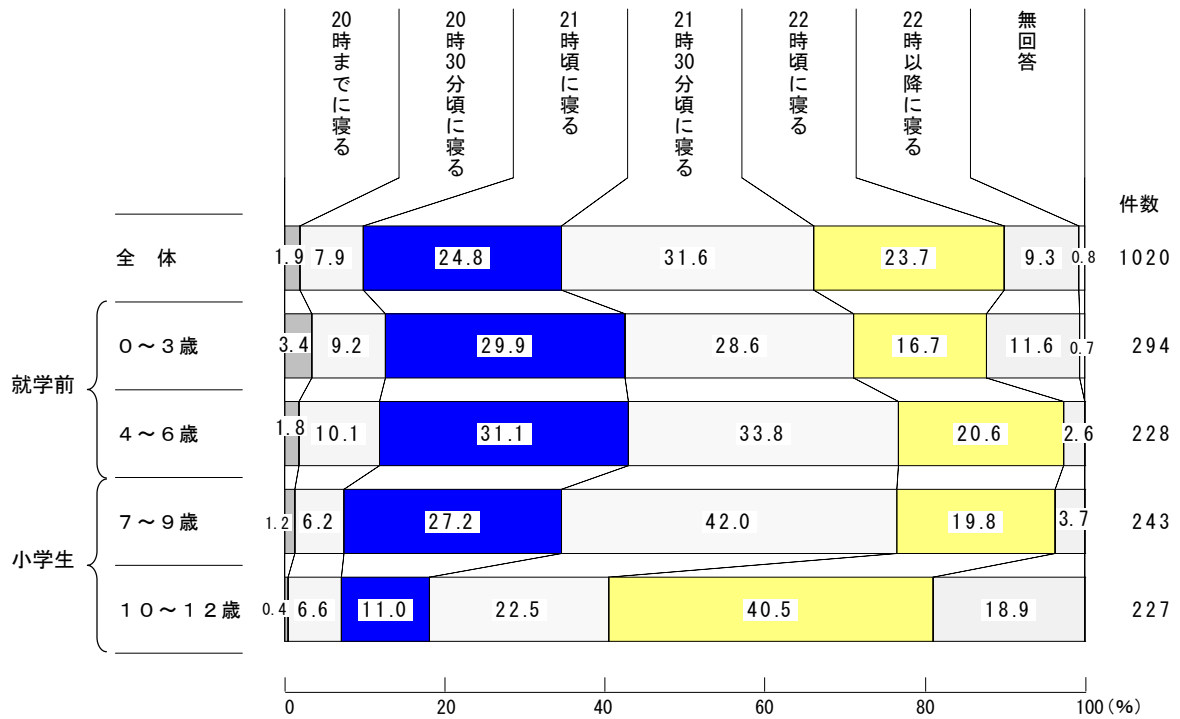


(4) 就寝時刻

就寝時刻について、全体では21時頃までに寝る子どもが34.6%、「21時30分頃に寝る」という子どもが31.6%、「22時頃に寝る」という子どもが23.7%となっており、22時までに寝る子どもが89.9%と約9割となっている。

子どもの年齢別にみると、小学校高学年（10～12歳）では、「22時頃に寝る」という子どもが40.5%、「22時以降に寝る」という子どもが18.9%と他の年齢に比べて遅い時刻の割合が高くなっている。

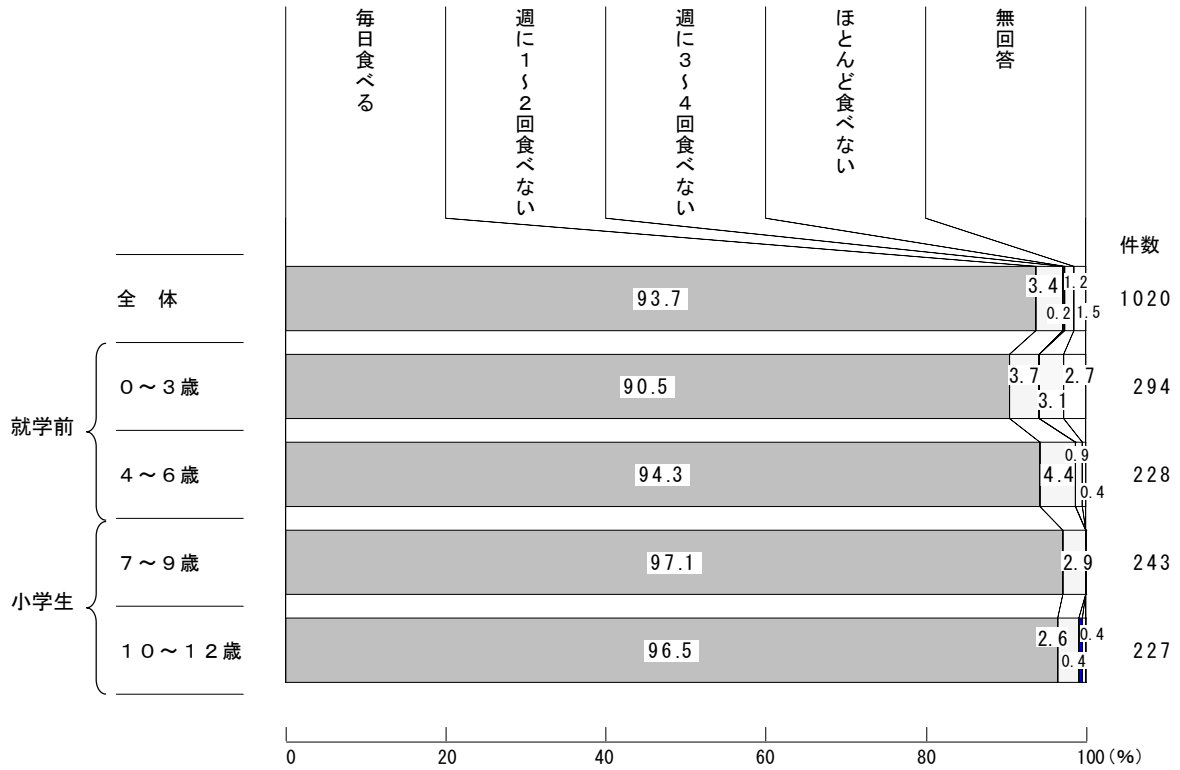
【図1-5 子どもの就寝時刻】



(5) 朝食の状況

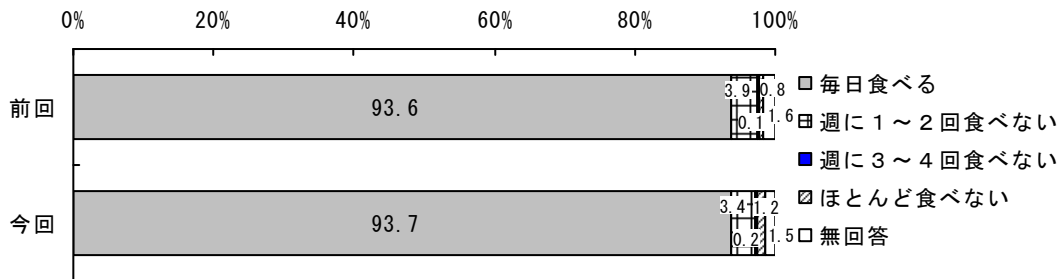
朝食のとり方について、全体では「毎日食べる」が93.7%で9割を超えている。
 子どもの年齢別にみても、すべての年齢で「毎日食べる」の割合が9割を超えている。

【図 1-6 子どもの朝食の状況】



前回調査との比較

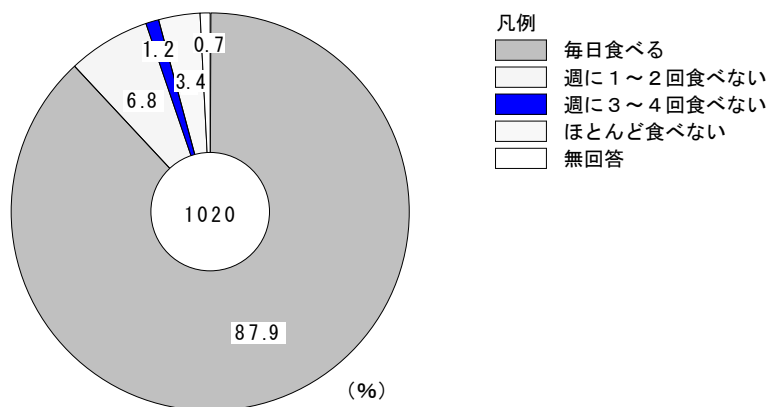
全体の回答について、「毎日食べる」の割合は、前回は93.6%、今回は93.7%と変化はみられない。



(6) アンケート記入者の朝食の状況

アンケート記入者の朝食のとり方について、「毎日食べる」が87.9%で約9割となっている。

【図 1-7 アンケート記入者の朝食の状況】

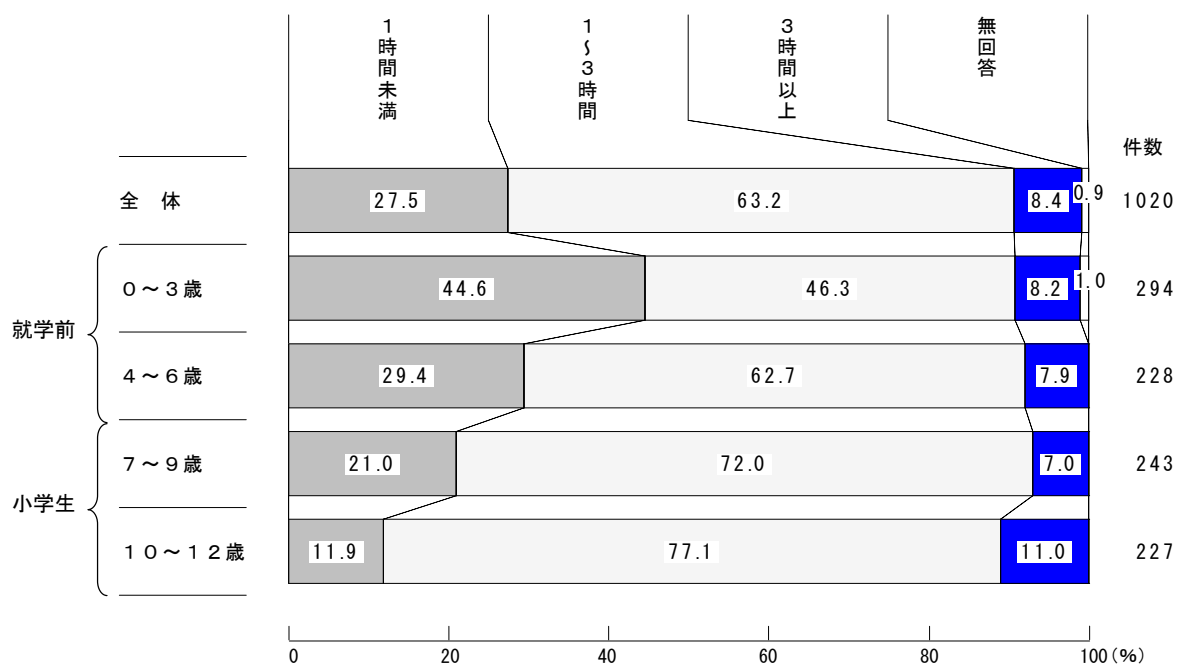


(7) テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間

テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間について、全体では「1~3時間」が63.2%で6割を超えている。

子どもの年齢別にみても、すべての年齢で「1~3時間」の割合が最も高くなっている。

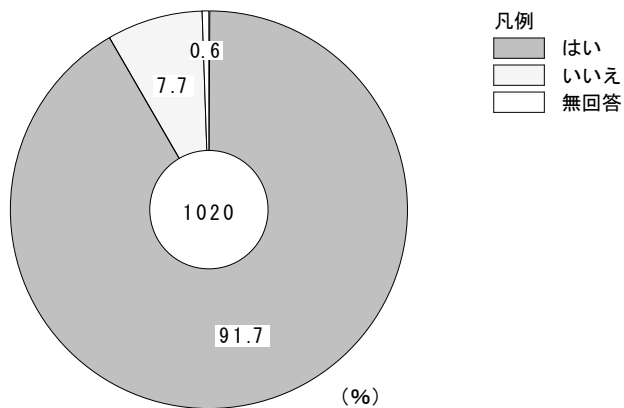
【図 1-8 テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間】



(8) 子どものかかりつけ医の有無（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

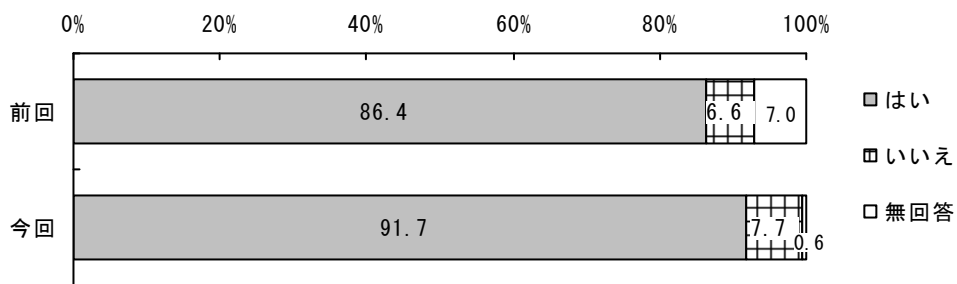
かかりつけ医の有無について、「はい」が91.7%と9割を超えている。

【図 1-9 かかりつけ医の有無】



前回調査との比較

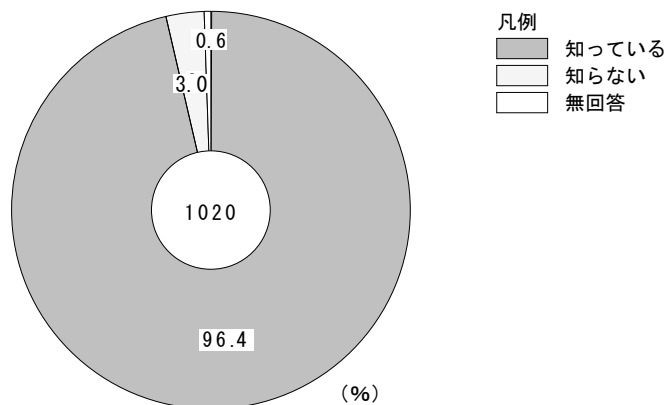
全体の回答について、「はい」の割合は、前回は86.4%、今回は91.7%と5.3ポイント増加している。



(9) 「出雲休日診療所」の周知状況

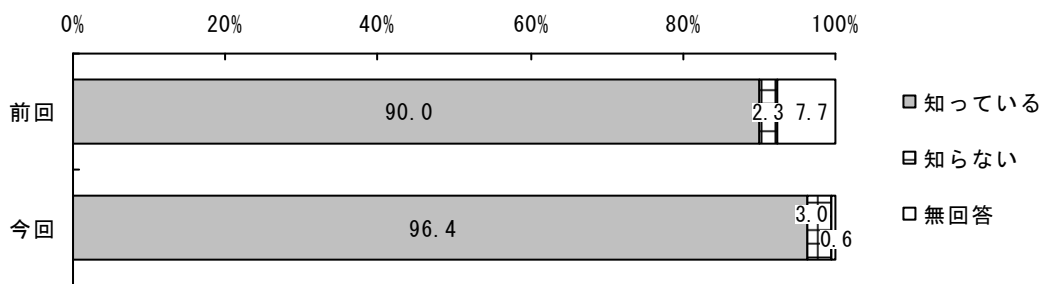
「出雲休日診療所」の周知状況について、「知っている」が96.4%と9割を超えている。

【図 1-10 「出雲休日診療所」の周知状況】



前回調査との比較

全体の回答について、「知っている」の割合は、前回は90.0%、今回は96.4%と6.4ポイント増加している。

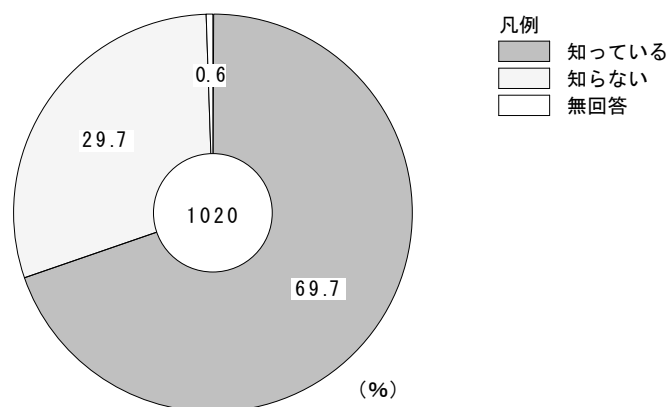


(10) 心肺蘇生法（心臓マッサージ）の周知状況

①周知状況

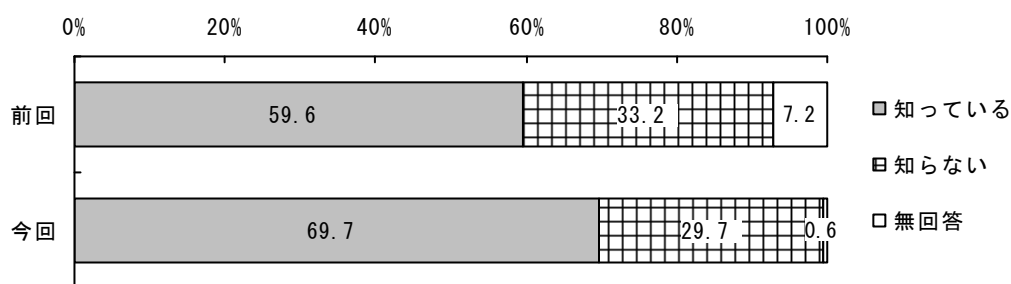
心肺蘇生法（心臓マッサージ）の周知状況について、「知っている」が69.7%、「知らない」が29.7%と「知っている」が「知らない」を大きく上回っている。

【図 1-11 心肺蘇生法（心臓マッサージ）の周知状況】



前回調査との比較

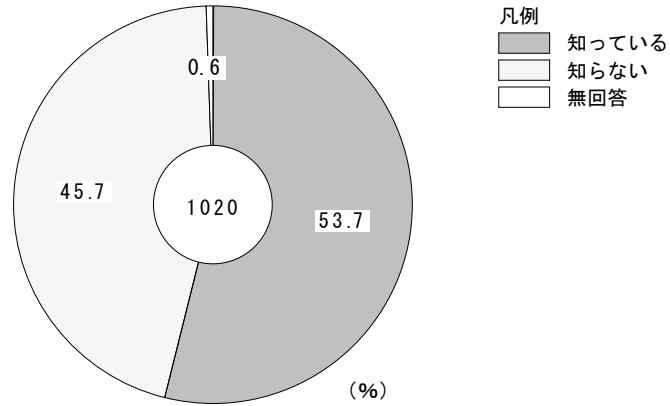
全体の回答について、「知っている」の割合は、前回は59.6%、今回が69.7%と10.1ポイント増加している。



(11) AED（自動体外式除細動器）の操作方法の周知状況

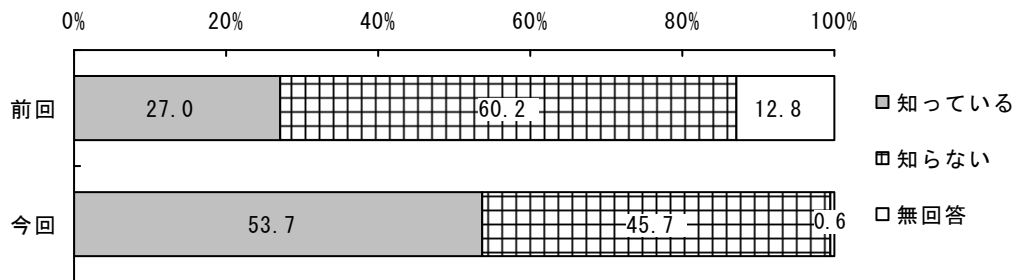
AED（自動体外式除細動器）の操作方法について、「知っている」が53.7%、「知らない」が45.7%と「知っている」の割合が5割を超えている。

【図 1-12 AED（自動体外式除細動器）の操作方法の周知状況】



前回調査との比較

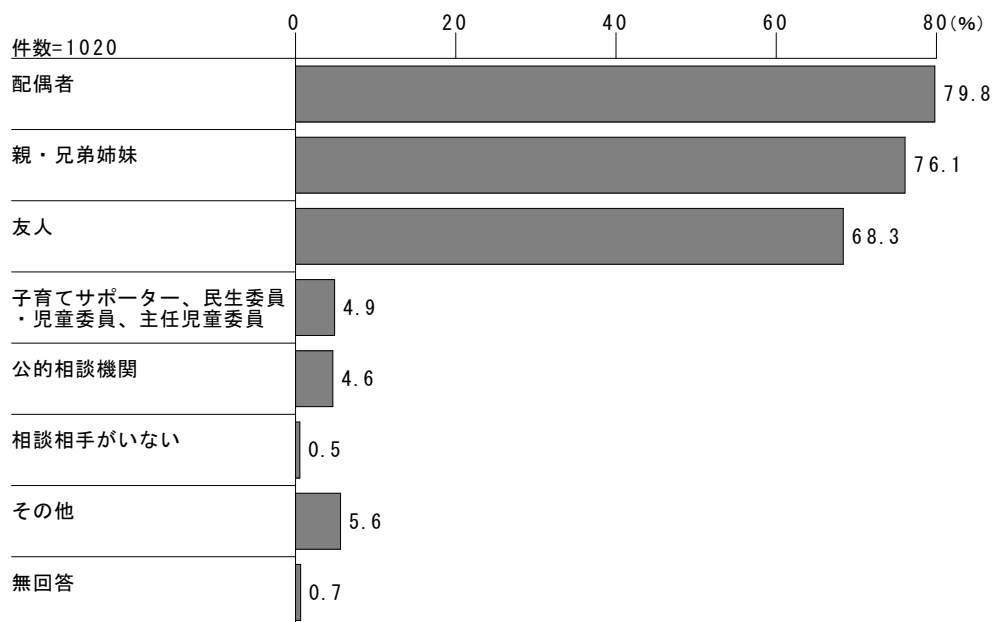
全体の回答について、「知っている」の割合は、前回は27.0%、今回は53.7%と26.7ポイント増加している。



(12) 子育ての相談相手

子育ての主な相談相手について、「配偶者」(79.8%)、「親・兄弟姉妹」(76.1%)が7割を超えて高く、次いで「友人」(68.3%)、「子育てサポーター、民生委員・児童委員、主任児童委員」(4.9%)、「公的相談機関」(4.6%)などが続いている。

【図 1-13 子育ての主な相談相手】



(13) 子育てに自信が持てないこと

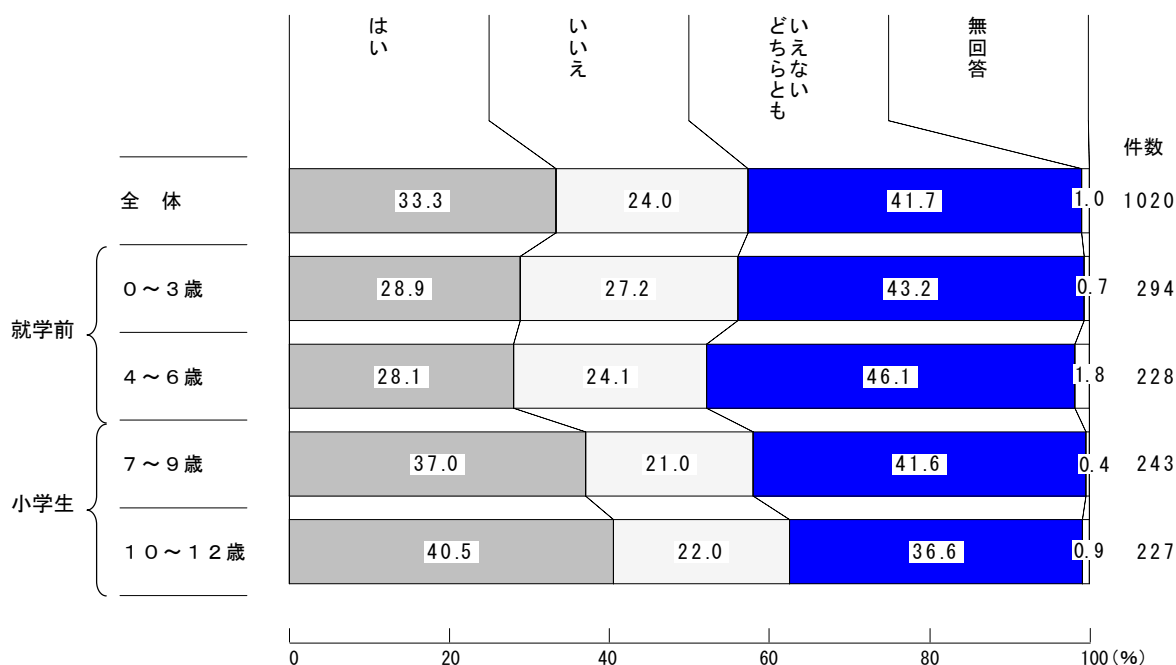
子育てに自身が持てないことがあるかどうかについて、全体では「はい」が 33.3%、「いいえ」が 24.0%、「どちらともいえない」が 41.7%となっている。

子どもの年齢別にみると、小学生では、「はい」の割合が約 4 割となっており、就学前より高くなっている。

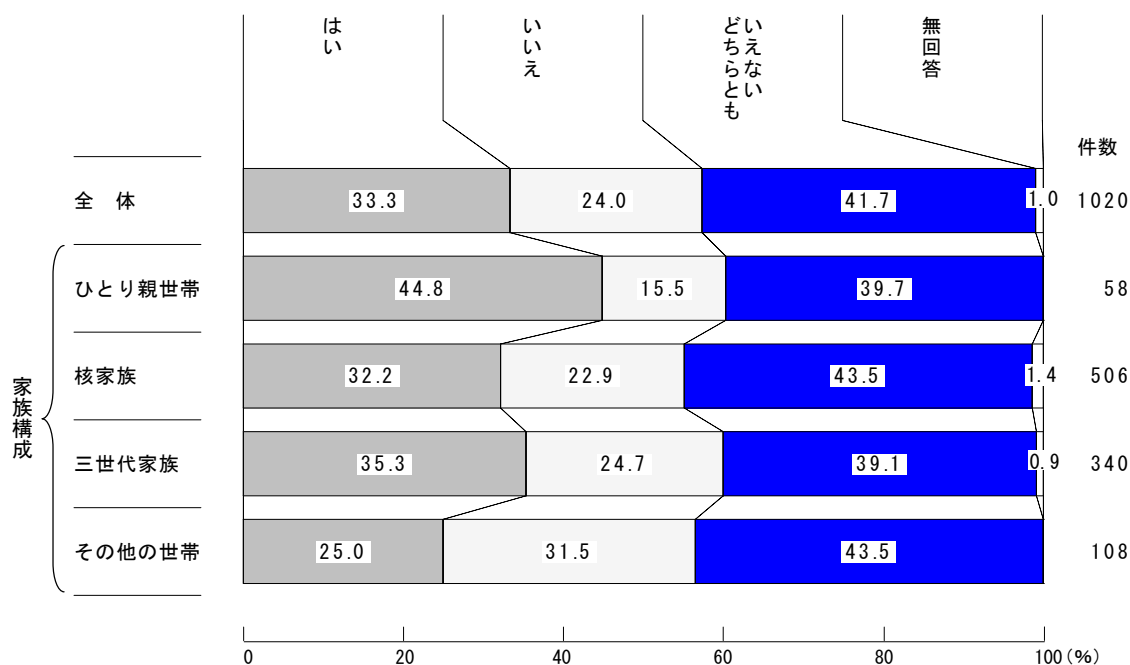
家族構成別にみると、ひとり親世帯では、「はい」の割合が 4 割を超え他の家族構成に比べ高くなっている。

保護者の就労状況別にみると、「その他」を除くすべての就労状況で「はい」の割合が 3 割を超えている。

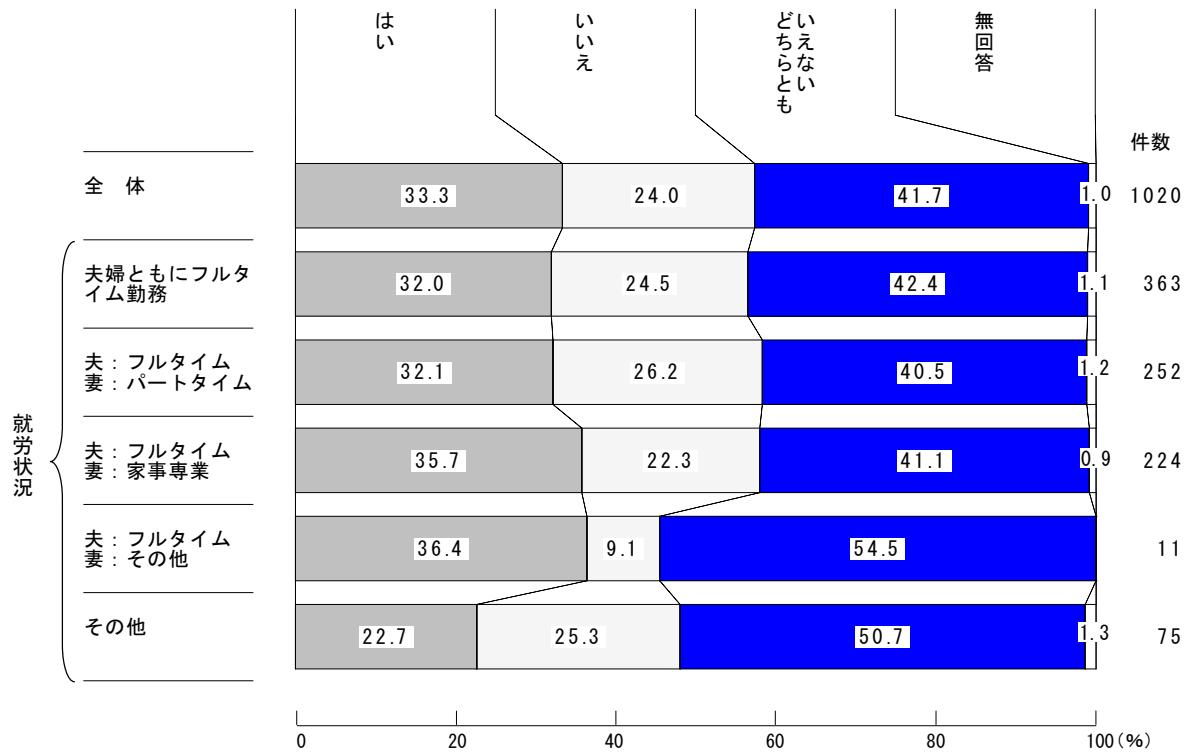
【図 1-14 子育てに自信が持てないこと（年齢別）】



【図 1-15 子育てに自信が持てないこと（家族構成別）】

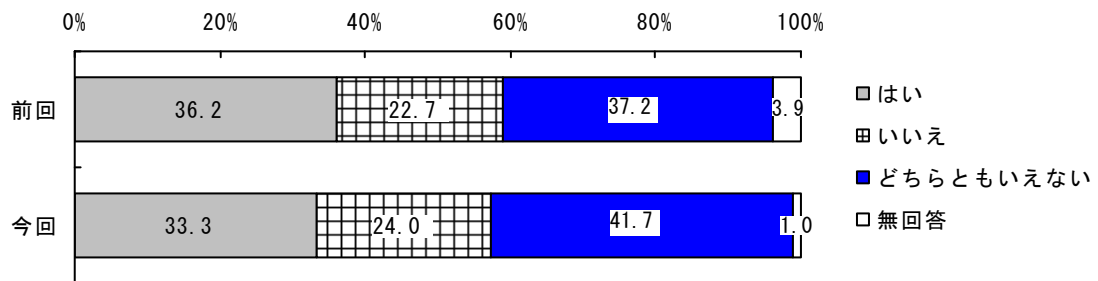


【図 1-16 子育てに自信が持てないこと（就労状況別）】



前回調査との比較

全体の回答について、「はい」の割合は、前回は36.2%、今回は33.3%と2.9ポイント減少している。



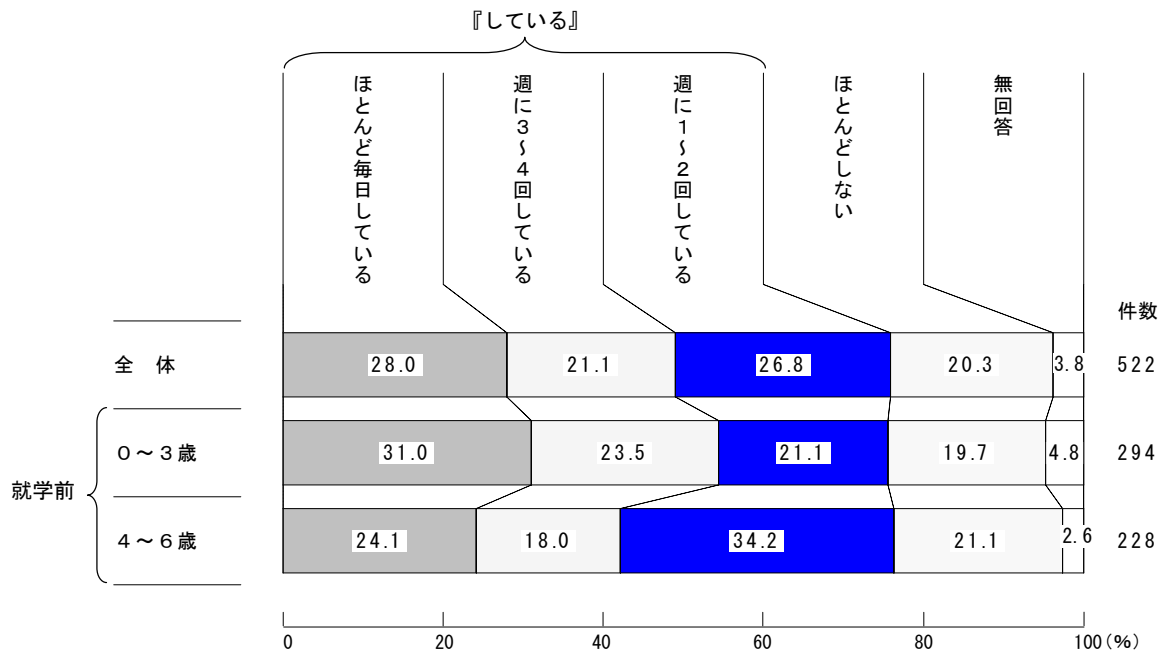
2. 子どもの読書習慣について

(1) 絵本の読み聞かせについて（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

絵本の読み聞かせについて、全体では「ほとんど毎日している」が28.0%、「週に3～4回している」が21.1%、「週に1～2回している」が26.8%と絵本の読み聞かせを『している』の割合が75.9%となっている。

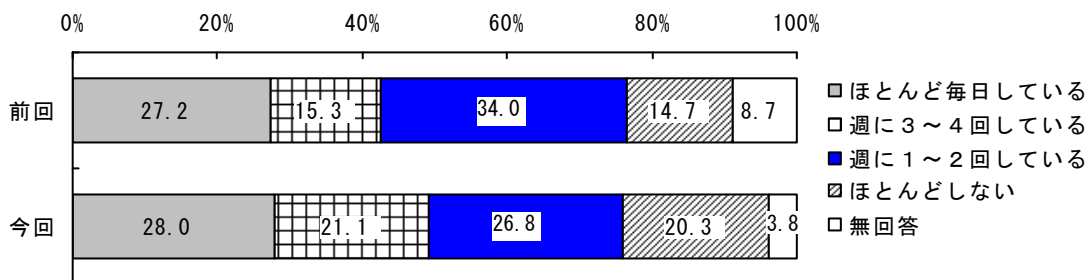
子どもの年齢別にみると、「ほとんど毎日している」が0～3歳では31.0%と3割あるのに対し、4～6歳では24.1%と2割台にとどまっている。

【図 2-1 絵本の読み聞かせについて】



前回調査との比較

全体の回答について、『している』の割合は、前回は76.5%、今回は75.9%とほとんど変化はみられない。

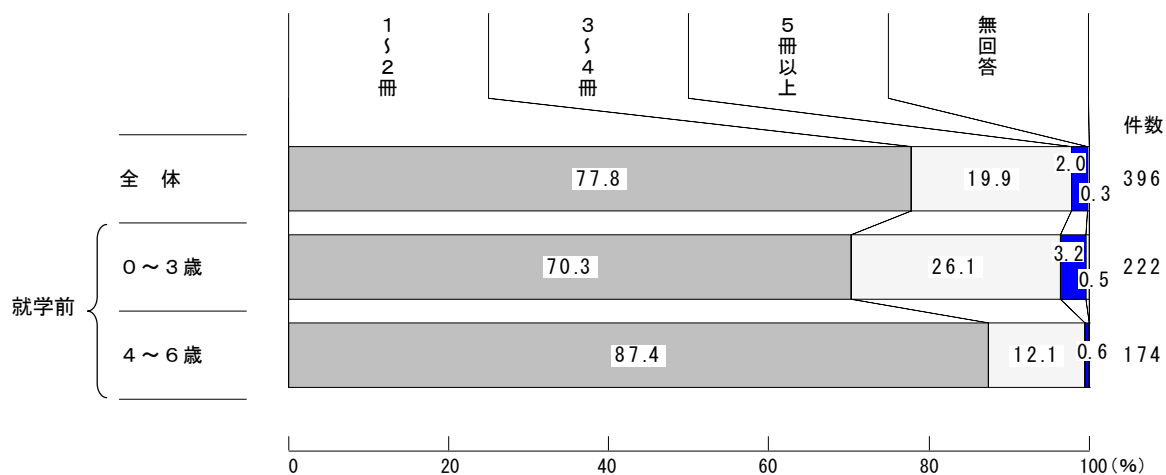


(2) 絵本の読み聞かせの冊数（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

絵本の読み聞かせの冊数について、全体では「1～2冊」が77.8%と約8割となっている。次いで「3～4冊」が19.9%、「5冊以上」が2.0%の順となっている。

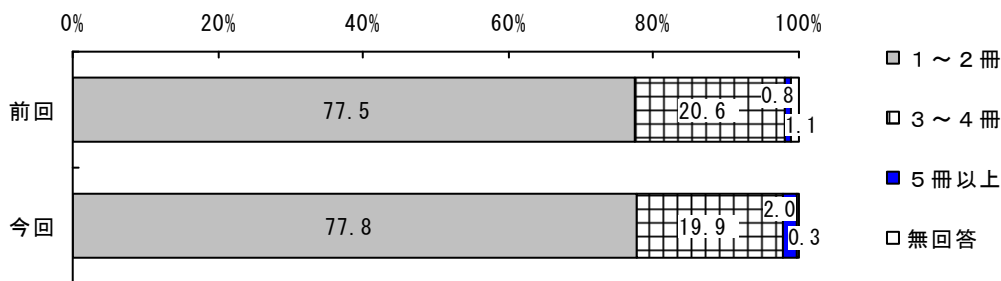
子どもの年齢別にみると、「3～4冊」が0～3歳では26.1%と2割を超えているのに対し、4～6歳では12.1%と1割強となっている。

【図 2-2 絵本の読み聞かせの冊数】



前回調査との比較

全体の回答について、前回、今回ともに「1～2冊」の割合が約8割と変化はみられない。

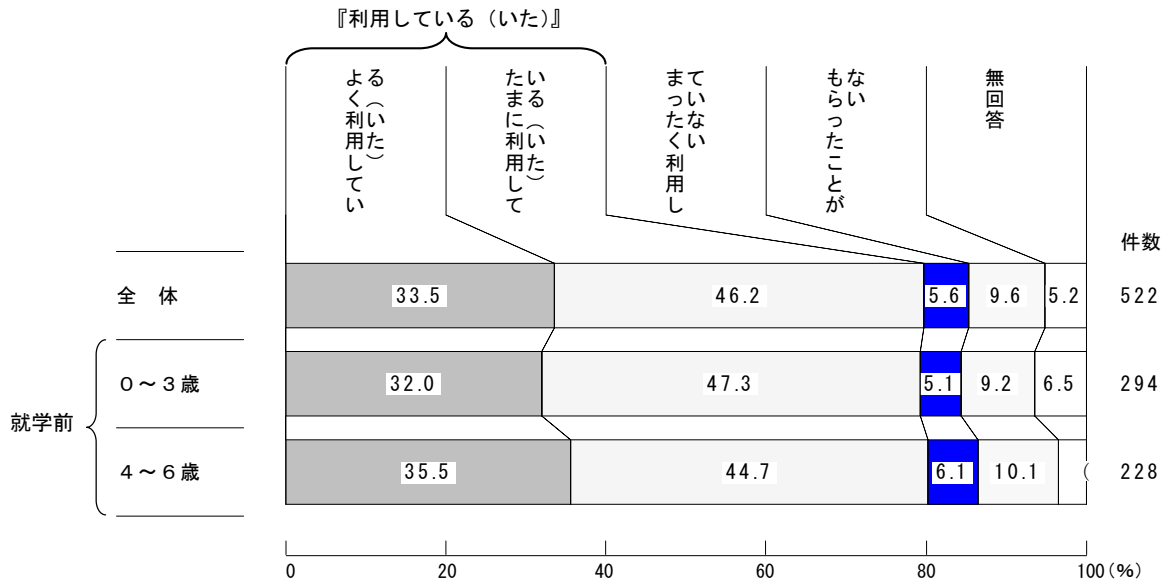


(3) ブックスタートでもらった絵本の利用について（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

ブックスタートでもらった絵本の利用について、全体では「よく利用している（いた）」が33.5%、「たまに利用している（いた）」が46.2%と両方を合わせると『利用している（いた）』が79.7%と約8割となっている。

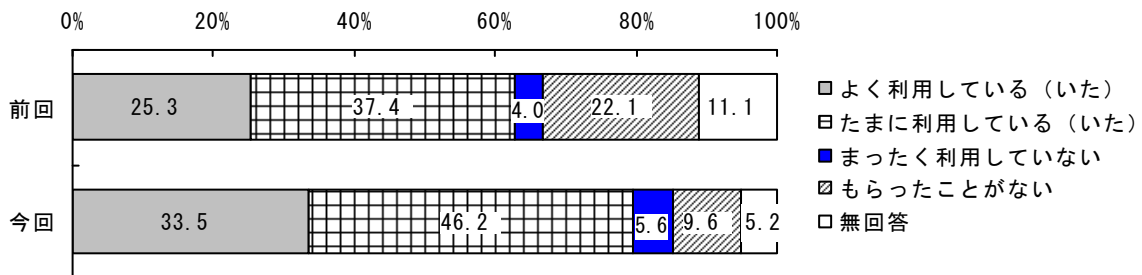
子どもの年齢別にみると、いずれの年齢においても『利用している（いた）』の割合が約8割となっている。

【図 2-3 ブックスタートでもらった絵本の利用】



前回調査との比較

全体の回答について、『利用している（いた）』の割合は、前回は62.7%、今回は79.7%と17.0ポイント増加している。

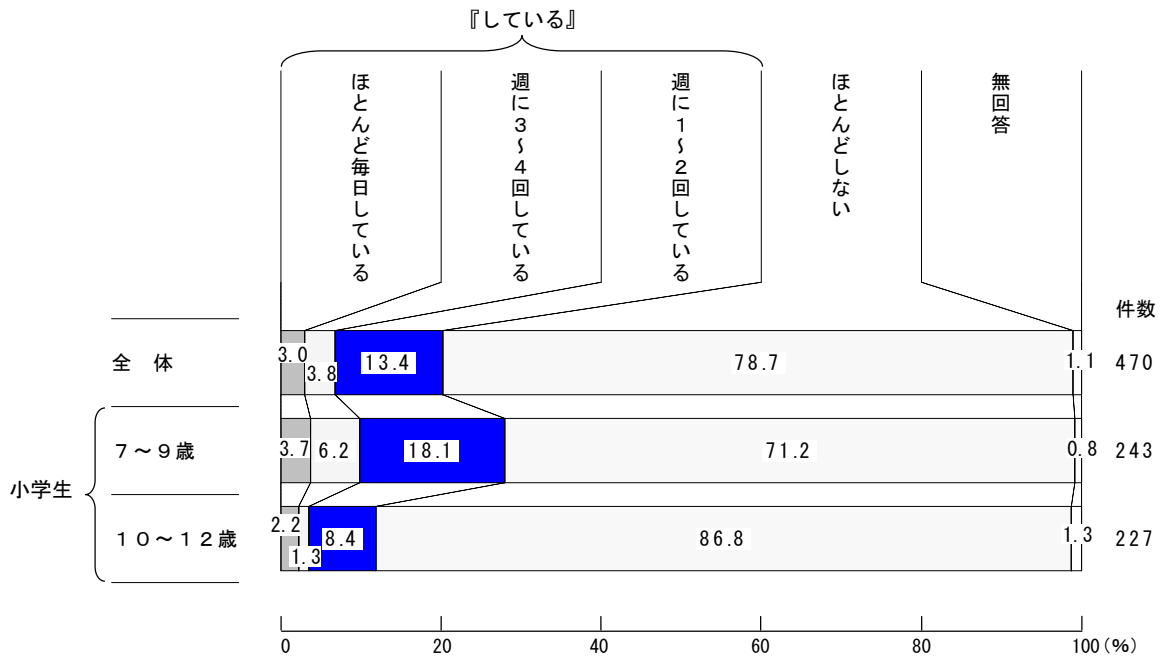


(4) 本の読み聞かせについて（小学生の子どもがいる保護者のみ回答）

本の読み聞かせについて、全体では「ほとんど毎日している」が3.0%、「週に3～4回している」が3.8%、「週に1～2回している」が13.4%と本の読み聞かせを『している』の割合が約2割となっている。

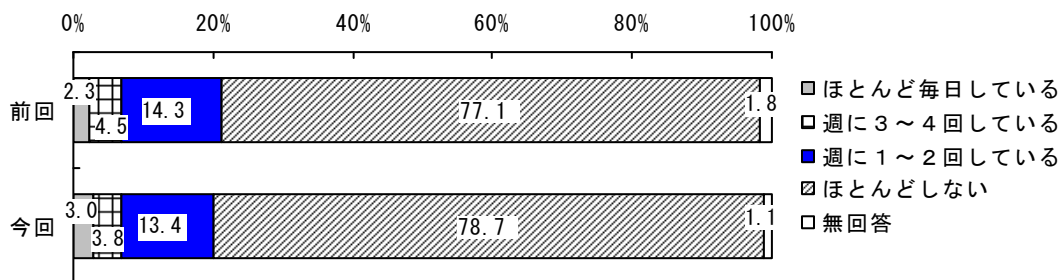
子どもの年齢別にみると、いずれの年齢でも「ほとんどしていない」が過半数となっており、小学生高学年（10～12歳）では86.8%と8割を超えている。

【図2-4 本の読み聞かせについて】



前回調査との比較

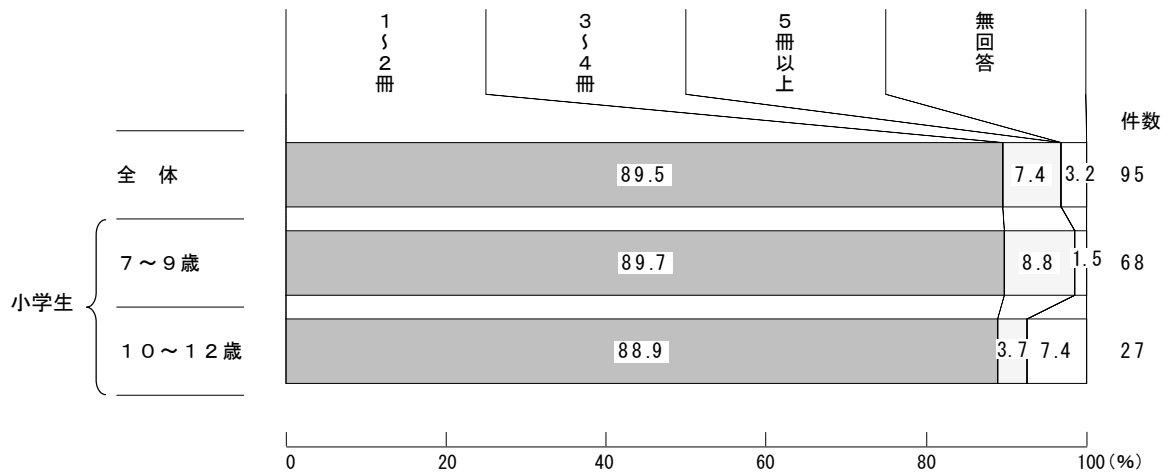
全体の回答について、前回、今回とも「ほとんどしていない」が7割を超えほとんど変化はみられない。



(5) 本の読み聞かせの冊数（小学生の子どもがいる保護者のみ回答）

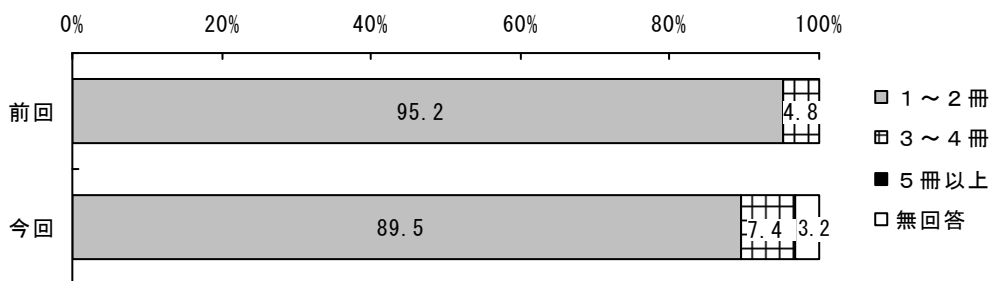
絵本の読み聞かせの冊数について、全体では「1～2冊」が89.5%と約9割となっている。子どもの年齢別にみても「1～2冊」の割合が約9割となっている。

【図 2-5 本の読み聞かせの冊数】



前回調査との比較

全体の回答について、「1～2冊」の割合は、前回は95.2%、今回は89.5%と5.7ポイント減少している。

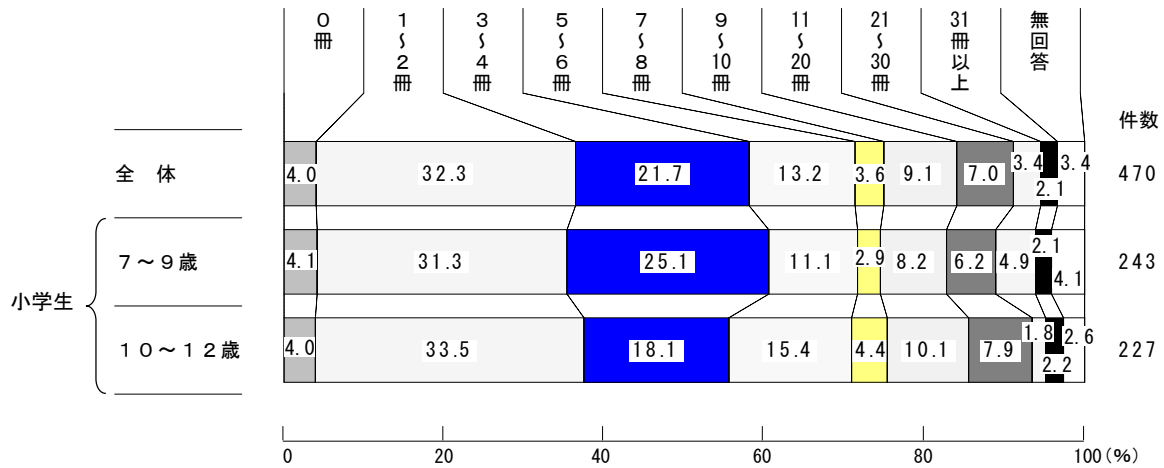


(6) 子どもの1ヶ月の読書冊数（小学生の子どもがいる保護者のみ回答）

1ヶ月の読書冊数について、「1~2冊」が32.3%、「3~4冊」が21.7%と高い割合となっている。

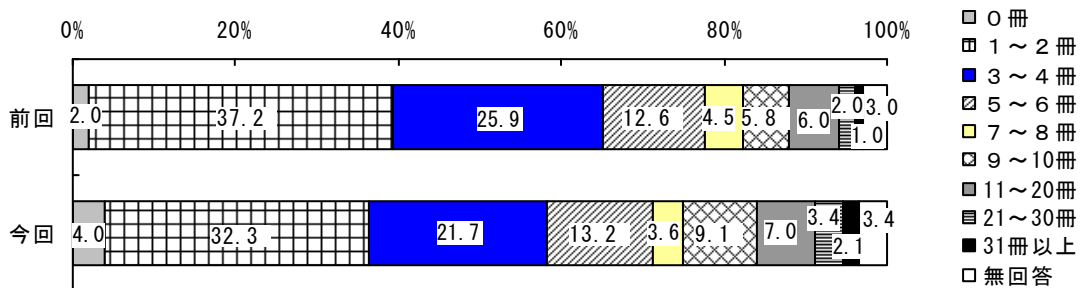
子どもの年齢別にみると、いずれの年齢でも「1~2冊」の割合が最も高くなっている。

【図 2-6 1ヶ月の読書冊数】



前回調査との比較

全体の回答について、「1~2冊」の割合は、前回は37.2%、今回は32.3%と4.9ポイント減少している。

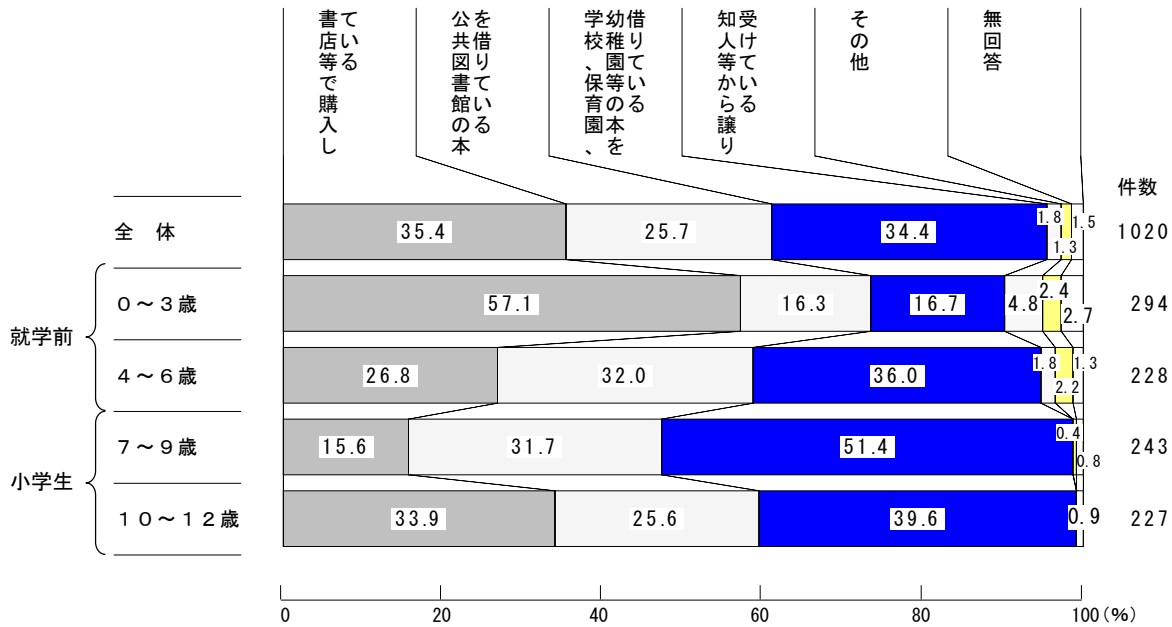


(7) 本の入手方法

本の入手方法について、「書店等で購入している」が35.4%、「学校、保育園、幼稚園等の本を借りている」が34.4%と高くなっている。

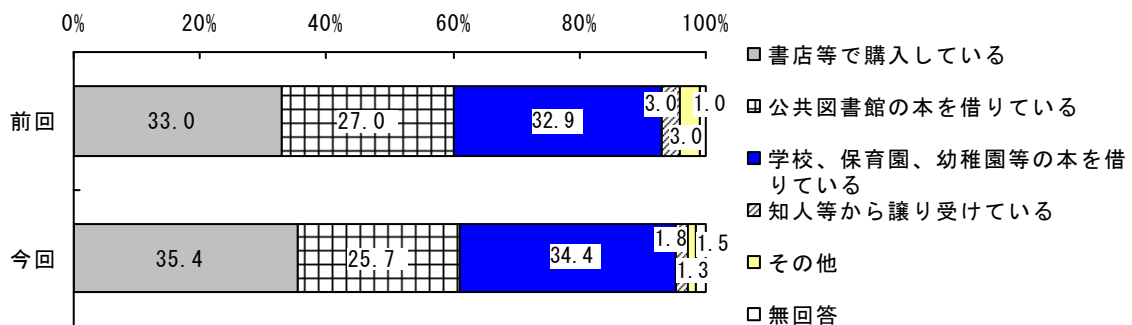
子どもの年齢別にみると、就学前の0～3歳では「書店等で購入している」が57.1%、小学生の7～9歳では「学校、保育園、幼稚園等の本を借りている」が51.4%と5割を超え高くなっている。

【図2-7 本の入手方法】



前回調査との比較

全体の回答について、「書店等で購入している」の割合は、前回は33.0%、今回は35.4%と2.4ポイント増加している。

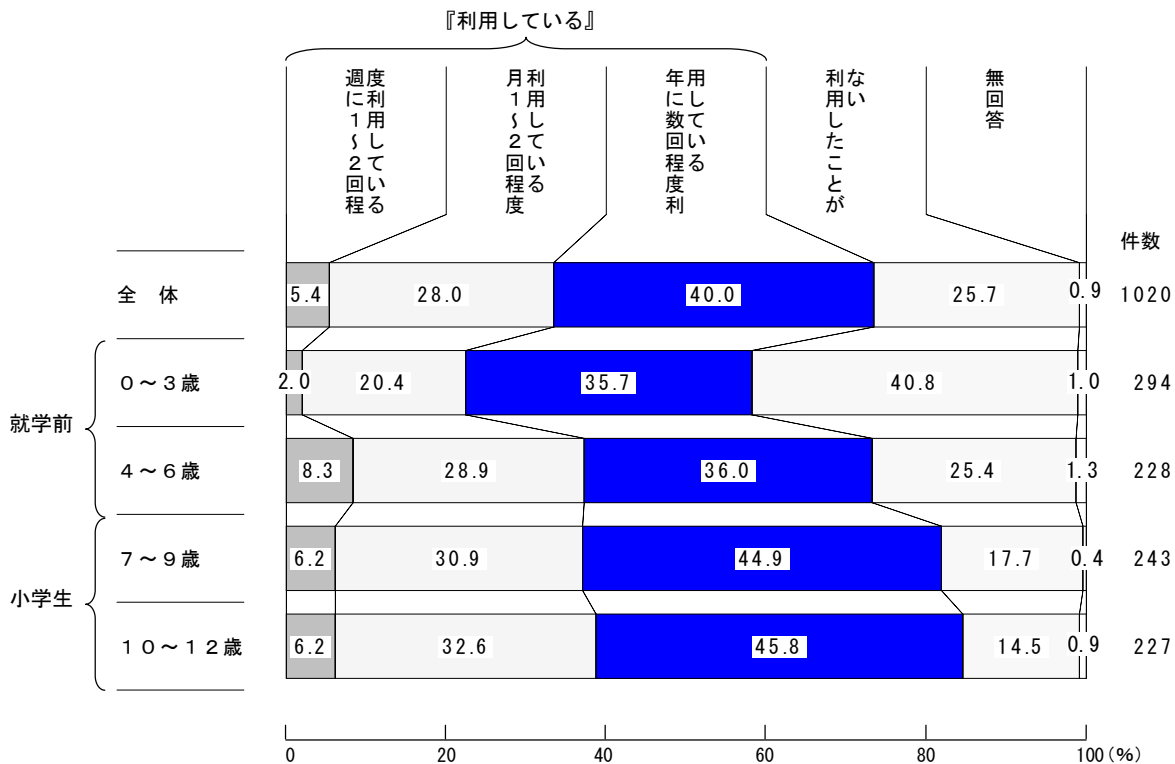


(8) 出雲市立図書館（6館）の利用の有無

出雲市立図書館（6館）の利用について、全体では「年に数回程度利用している」が40.0%で最も高く、次いで「月1～2回程度利用している」が28.0%となっている。

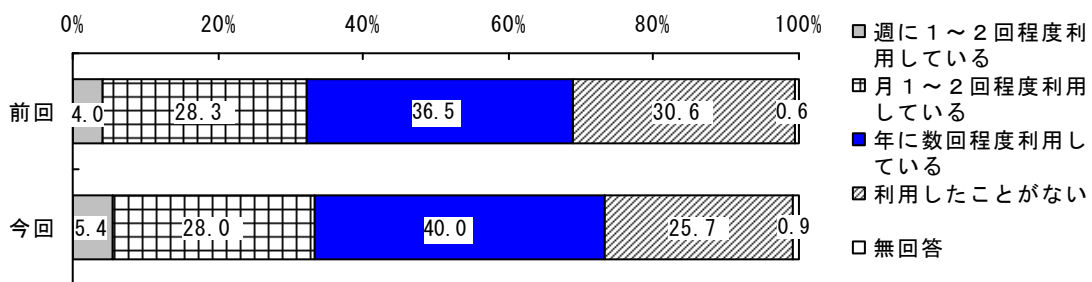
子どもの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『利用している』の割合が高くなっている。

【図2-8 出雲市立図書館（6館）の利用】



前回調査との比較

全体の回答について、『利用している』の割合は、前回は68.8%、今回は73.4%と4.6ポイント増加している。

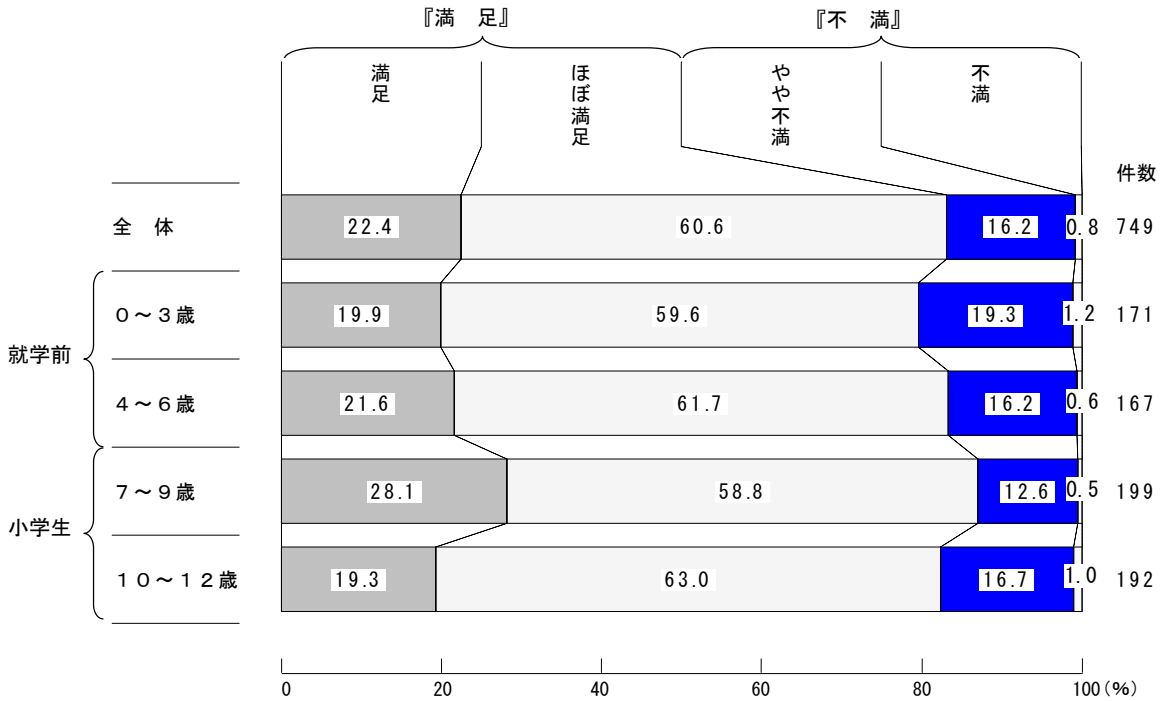


(9) 出雲市立図書館（6館）を利用しての感想

出雲市立図書館（6館）を利用しての感想について、全体では「満足」が22.4%、「ほぼ満足」が60.6%と両方を合わせた『満足』の割合が83.0%と8割を超え高くなっている。

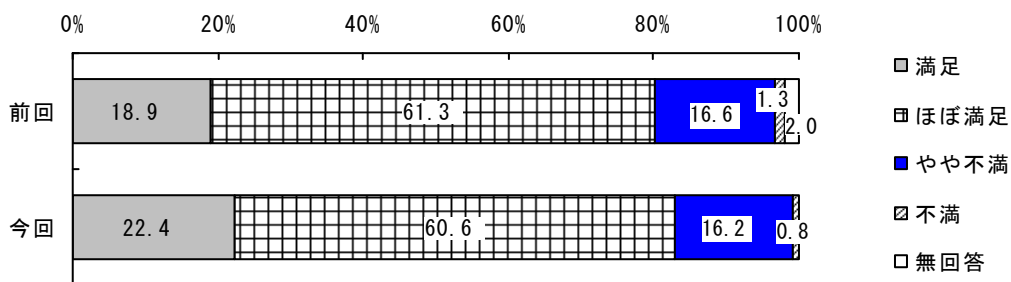
子どもの年齢別にみると、いずれの年齢でも『満足』の割合が高くなっている。

【図 2-9 出雲市立図書館（6館）を利用しての感想】



前回調査との比較

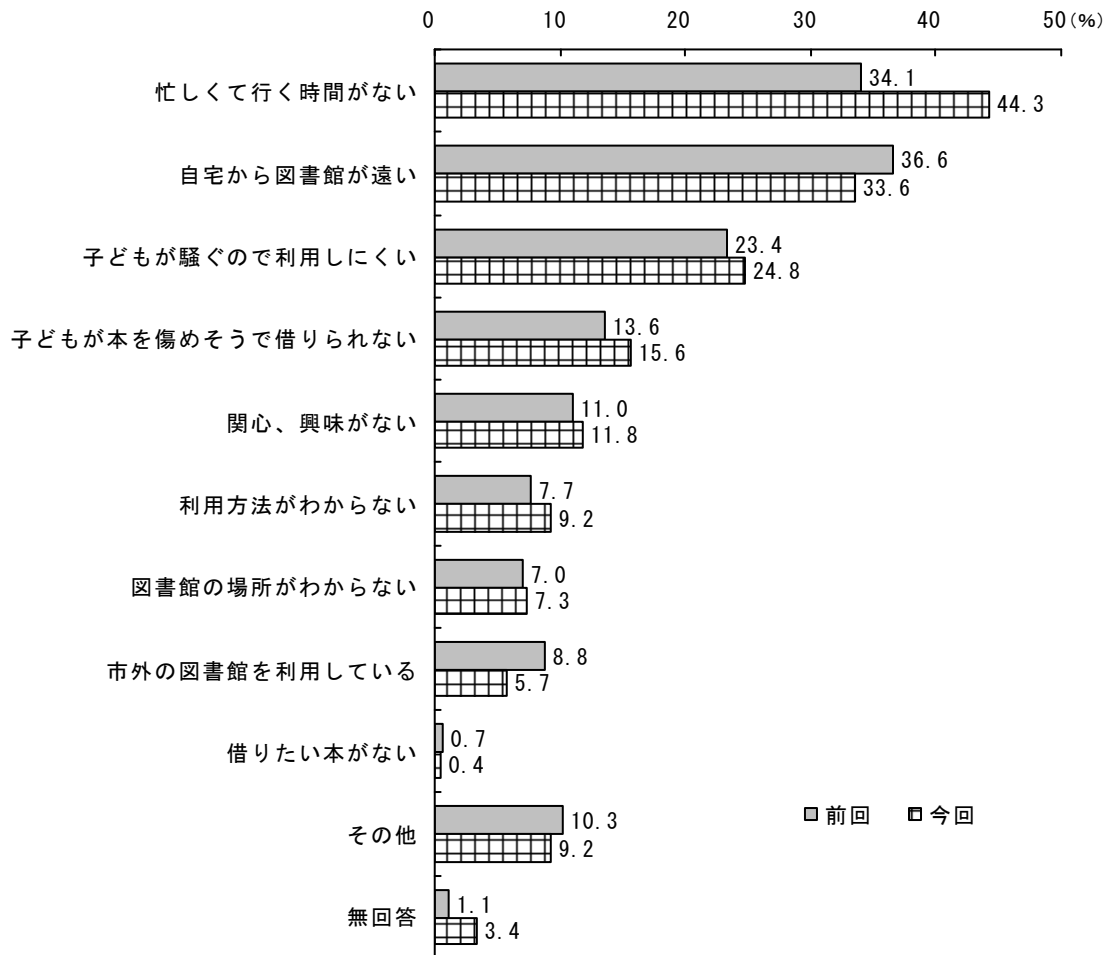
全体の回答について、『満足』の割合は、前回は80.2%、今回は83.0%と2.8ポイント増加している。



(10) 出雲市立図書館（6館）を利用しない理由

出雲市立図書館（6館）を利用しない理由について、「忙しくて行く時間がない」が44.3%と最も高く、次いで「自宅から図書館が遠い」（33.6%）、「子どもが騒ぐので利用しにくい」（24.8%）、「子どもが本を痛めそうで借りられない」（15.6%）、「関心、興味がない」（11.8%）などが続いている。

【図 2-10 出雲市立図書館（6館）を利用しない理由】



前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「忙しくて行く時間がない」の割合は、前回は34.1%、今回は44.3%と10.2ポイント増加している。

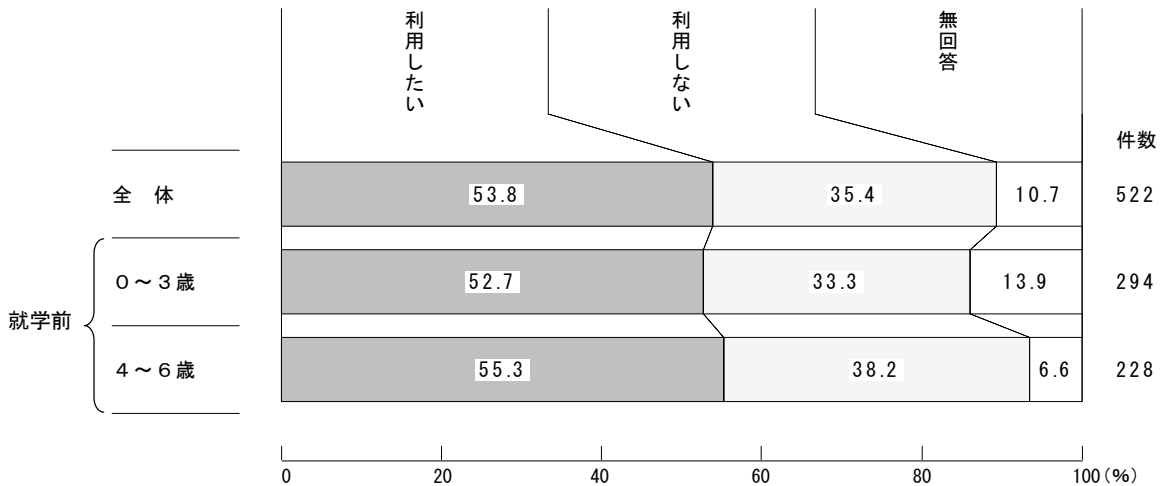
3. 放課後児童クラブの利用について

(1) 放課後児童クラブの利用意向（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

放課後児童クラブの利用意向について、全体では「利用したい」が53.8%、「利用しない」が35.4%となっている。

子どもの年齢別にみると、いずれの年齢においても「利用したい」の割合が5割を超えている。

【図 3-1 放課後児童クラブの利用意向】

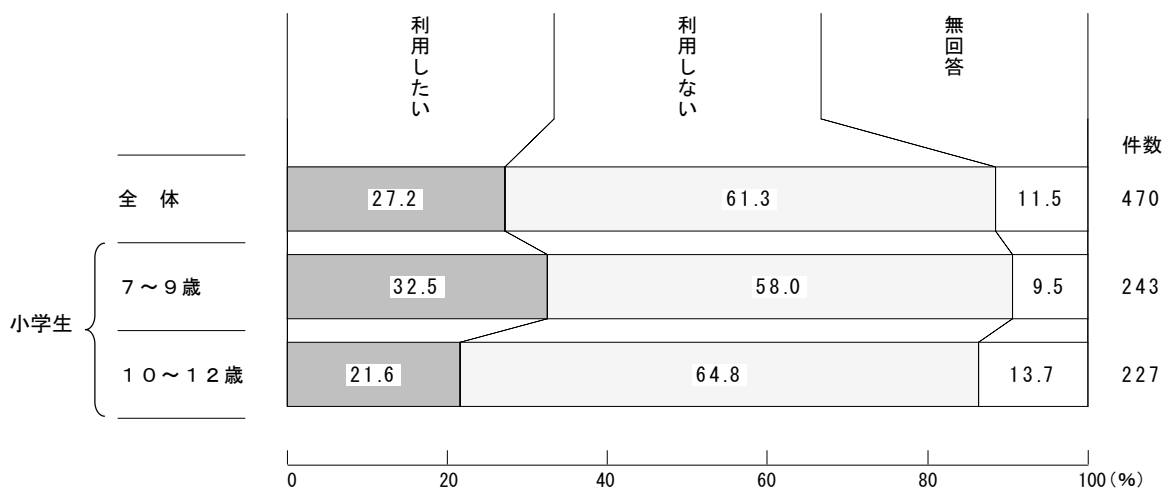


(2) 放課後児童クラブの小学校4年生以降の利用意向（小学生の子どもがいる保護者のみ回答）

放課後児童クラブの小学校4年生以降の利用意向について、全体では「利用したい」が27.2%、「利用しない」が61.3%となっており、利用意向のない人が6割を超えている。

子どもの年齢別にみると、小学生低学年（7～9歳）では「利用したい」の割合が32.5%と3割を超えているのに対し、高学年（10～12歳）では21.6%と2割台となっている。

【図 3-2 放課後児童クラブの小学校4年生以降の利用意向】



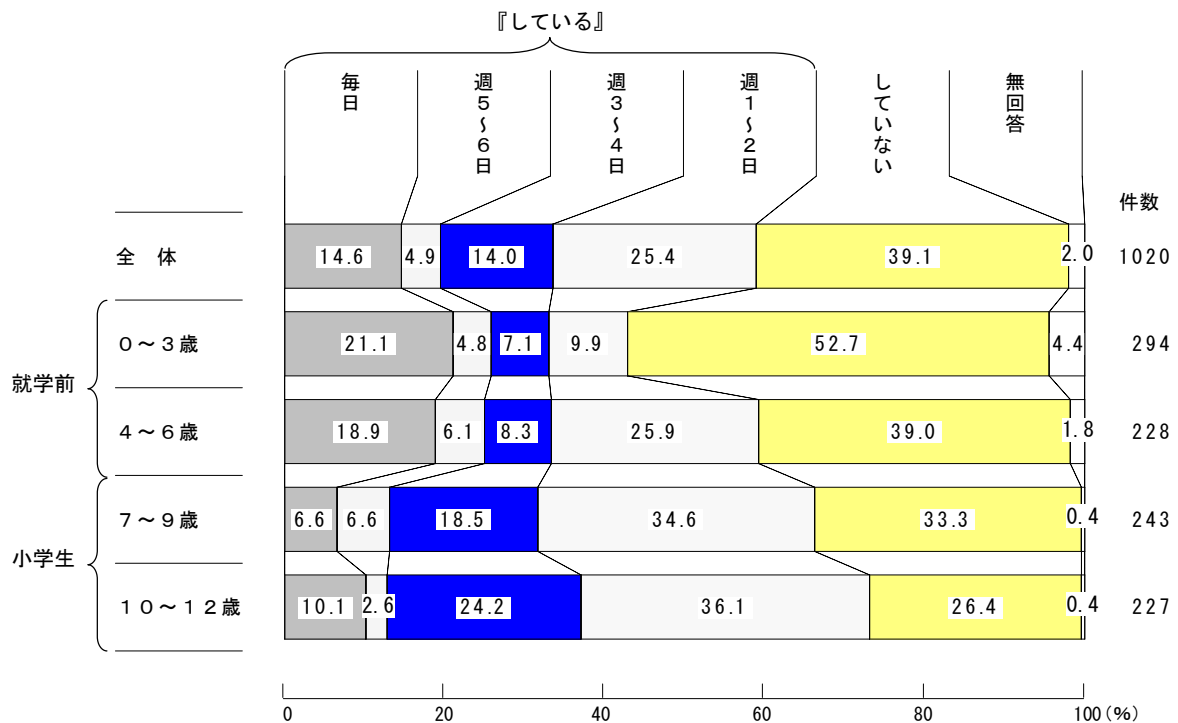
4. 健康・体力づくりについて

(1) 定期的な運動の有無

定期的な運動の有無について、全体では「毎日」が14.6%、「週5～6日」が4.9%、「週3～4日」が14.0%、「週1～2日」が25.4%と定期的に運動を『している』の割合が58.9%と約6割となっているが、「していない」の割合も39.1%と約4割となっている。

子どもの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて定期的な運動を『している』の割合が高くなっている。

【図 4-1 定期的な運動の有無】



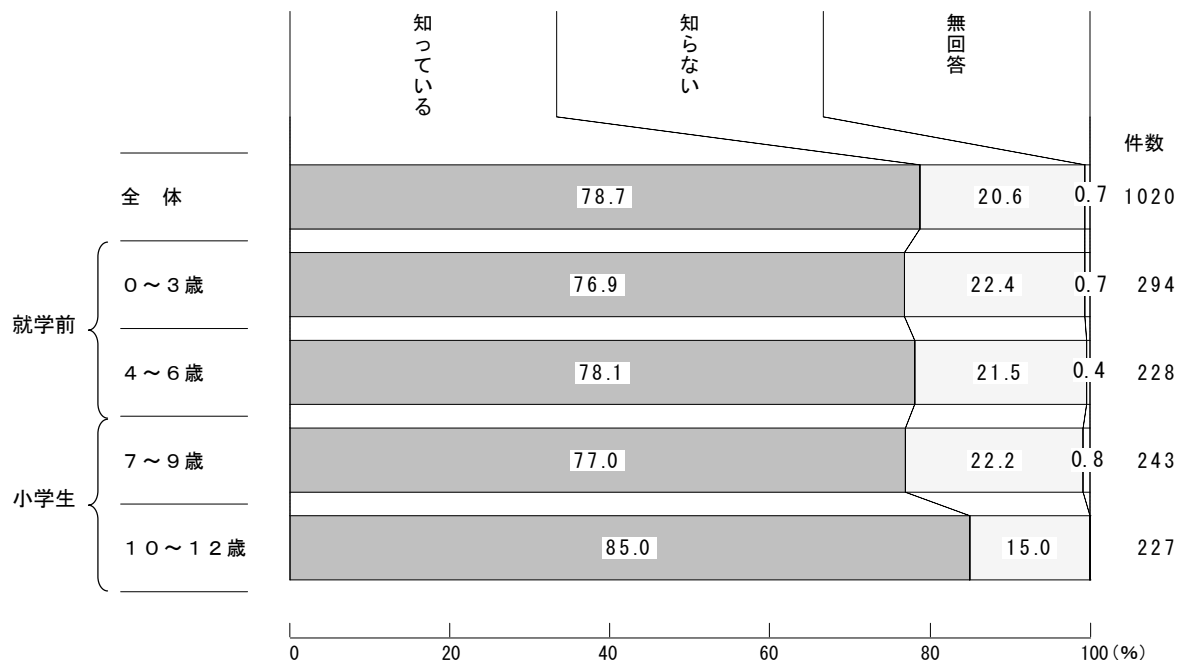
5. 子どもへの虐待について

(1) 虐待に関する相談窓口の周知状況

虐待に関する相談窓口の周知状況について、全体では「知っている」が78.7%で約8割となっている。

子どもの年齢別にみると、いずれの年齢においても「知っている」の割合が高く、小学生高学年（10～12歳）では8割を超えている。

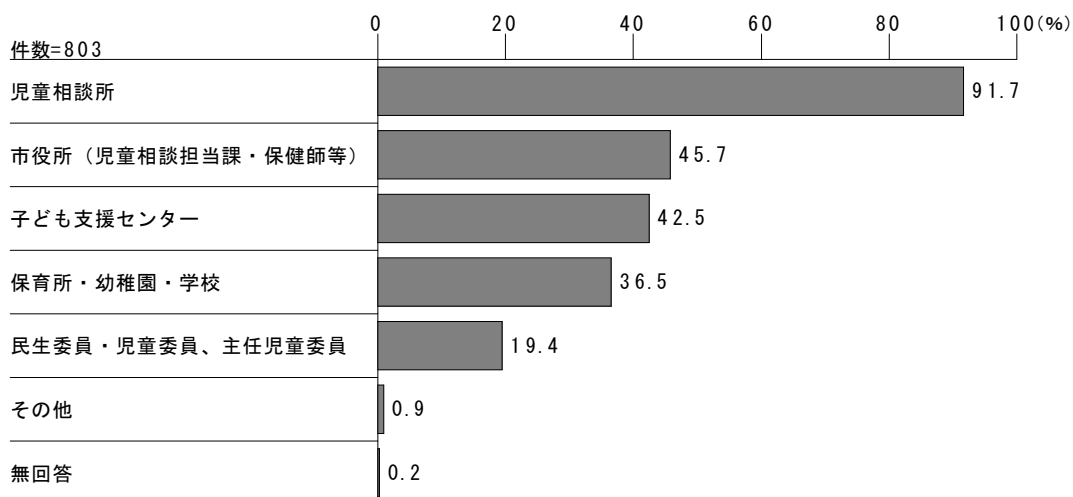
【図 5-1 虐待に関する相談窓口の周知状況】



(2) 虐待に関する相談窓口として知っている相談先

虐待に関する相談窓口として知っている相談先について、「児童相談所」が91.7%と9割を超え最も高く、次いで「市役所（児童相談担当課・保健師等）」（45.7%）、「子ども支援センター」（42.5%）、「保育所・幼稚園・学校」（36.5%）、「民生委員・児童委員、主任児童委員」（19.4%）の順となっている。

【図 5-2 相談先】

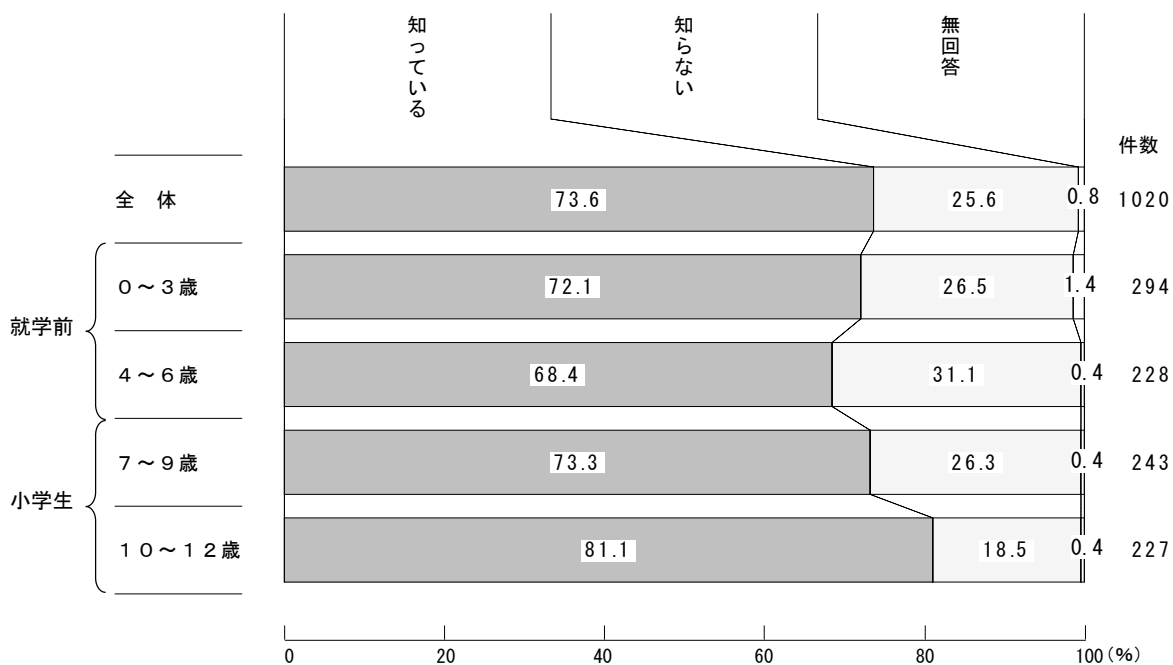


(3) 虐待が心配される際の通告義務の周知状況

虐待が心配される際の通告義務の周知状況について、全体では「知っている」が 73.6%、「知らない」が 25.6%と周知状況は高くなっている。

子どもの年齢別にみると、いずれの年齢においても「知っている」の割合が高く、小学生高学年（10～12歳）では8割を超えている。

【図 5-3 虐待が心配される際の通告義務の周知状況】



6. 少子化対策のために必要なことについて

(1) 地域全体で子どもを育てられているという実感について

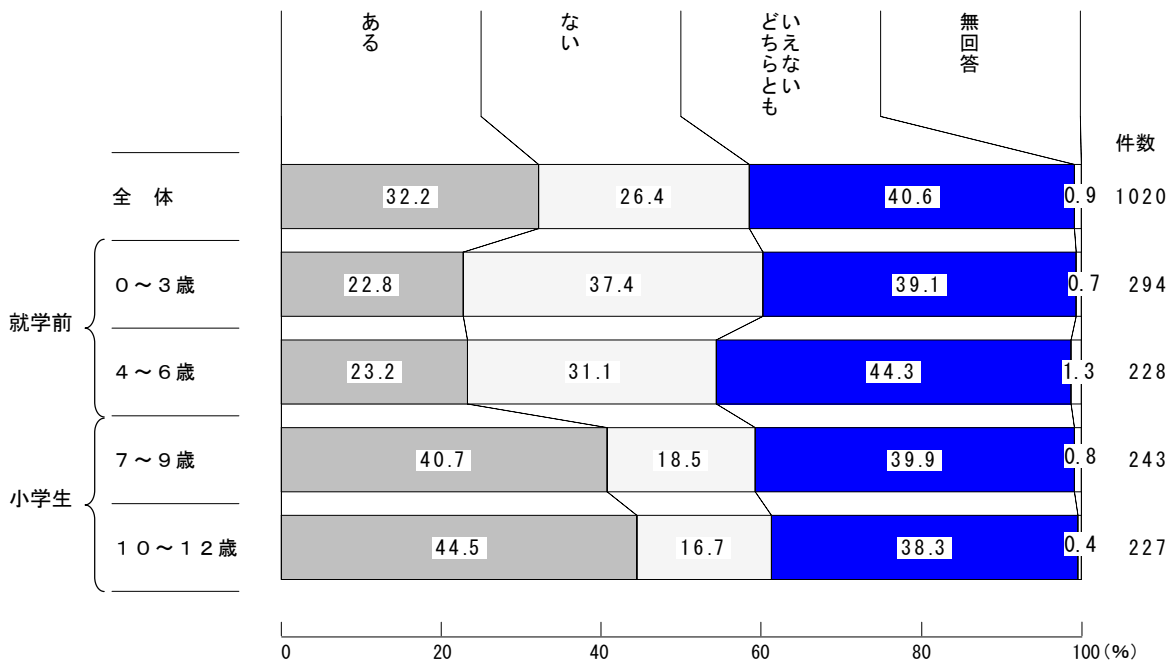
地域全体で子どもを育てられているという実感について、全体では「ある」が32.2%、「ない」が26.4%、「どちらともいえない」が40.6%となっている。

子どもの年齢別にみると、小学生では「ある」の割合が4割を超えている。

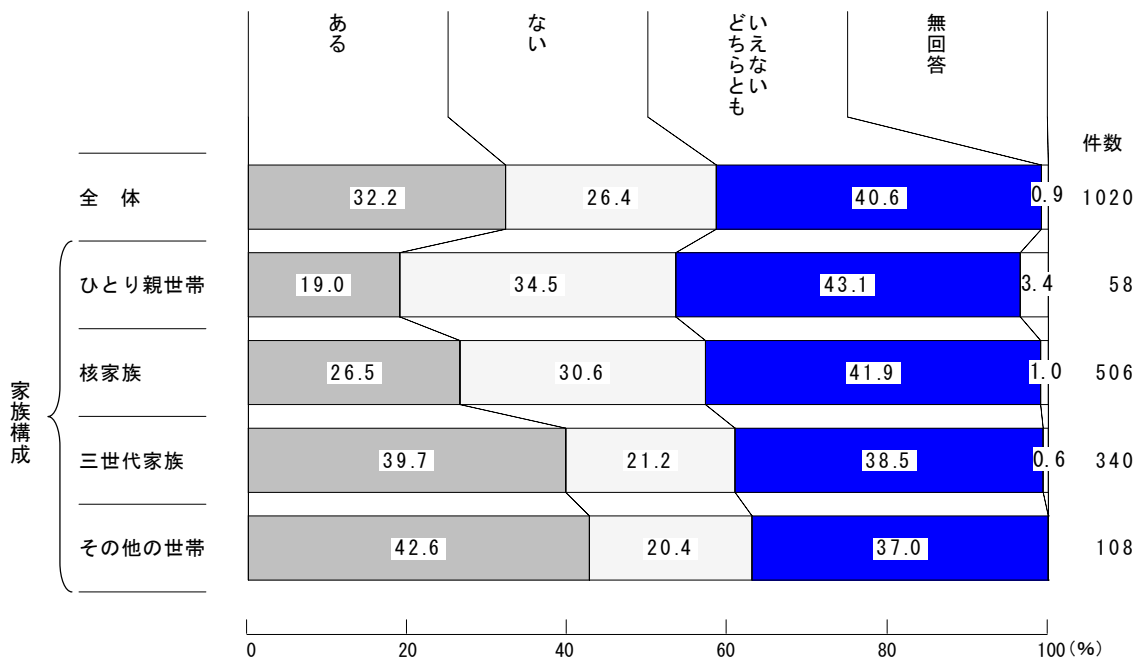
家族構成別にみると、三世代家族、その他の世帯では、地域全体で子どもを育てられているという実感が「ある」の割合が約4割と高くなっている。

就労状況別にみると、「夫：フルタイム 妻：パートタイム」では、実感が「ある」が39.7%で他の就労状況に比べて高くなっている。

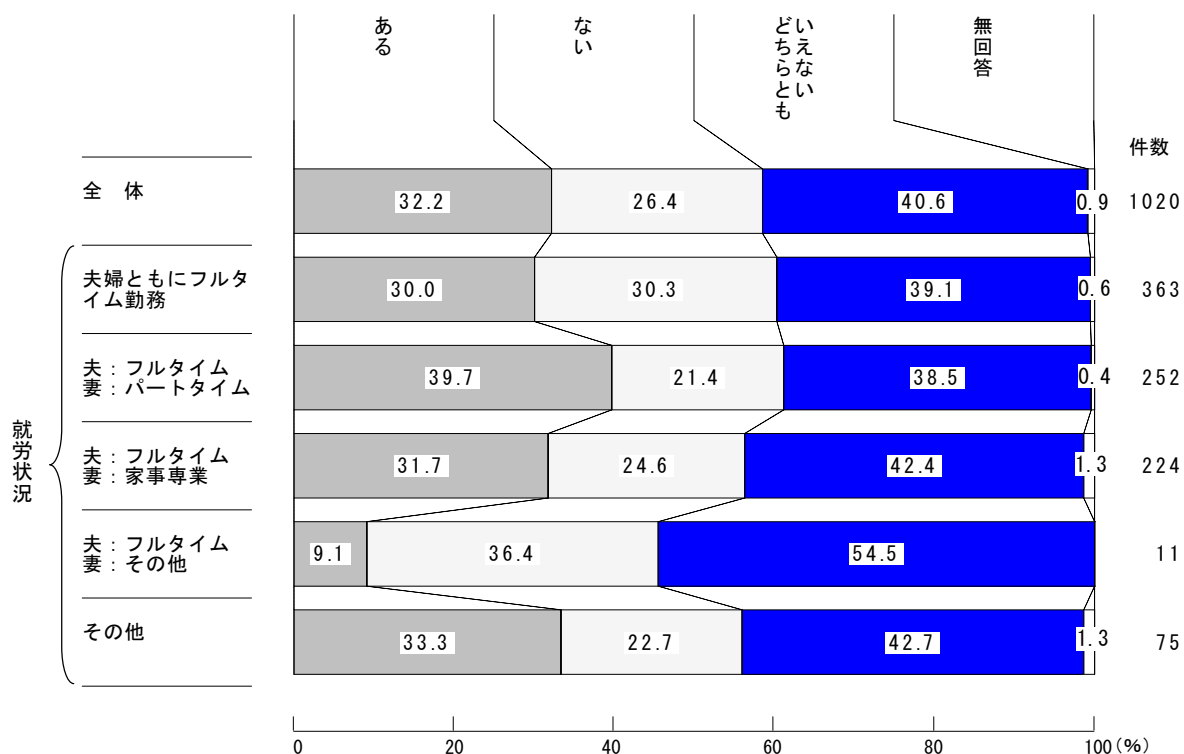
【図 6-1 地域全体で子どもを育てられているという実感について（年齢別）】



【図 6-2 地域全体で子どもを育てられているという実感について（家族構成別）】

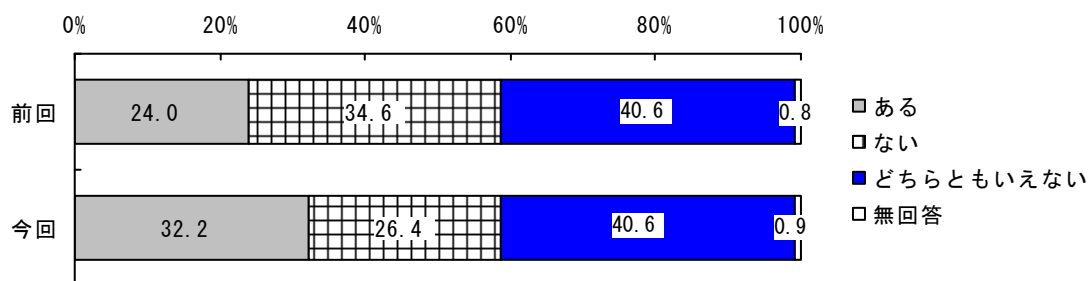


【図 6-3 地域全体で子どもを育てられているという実感について（就労状況別）】



前回調査との比較

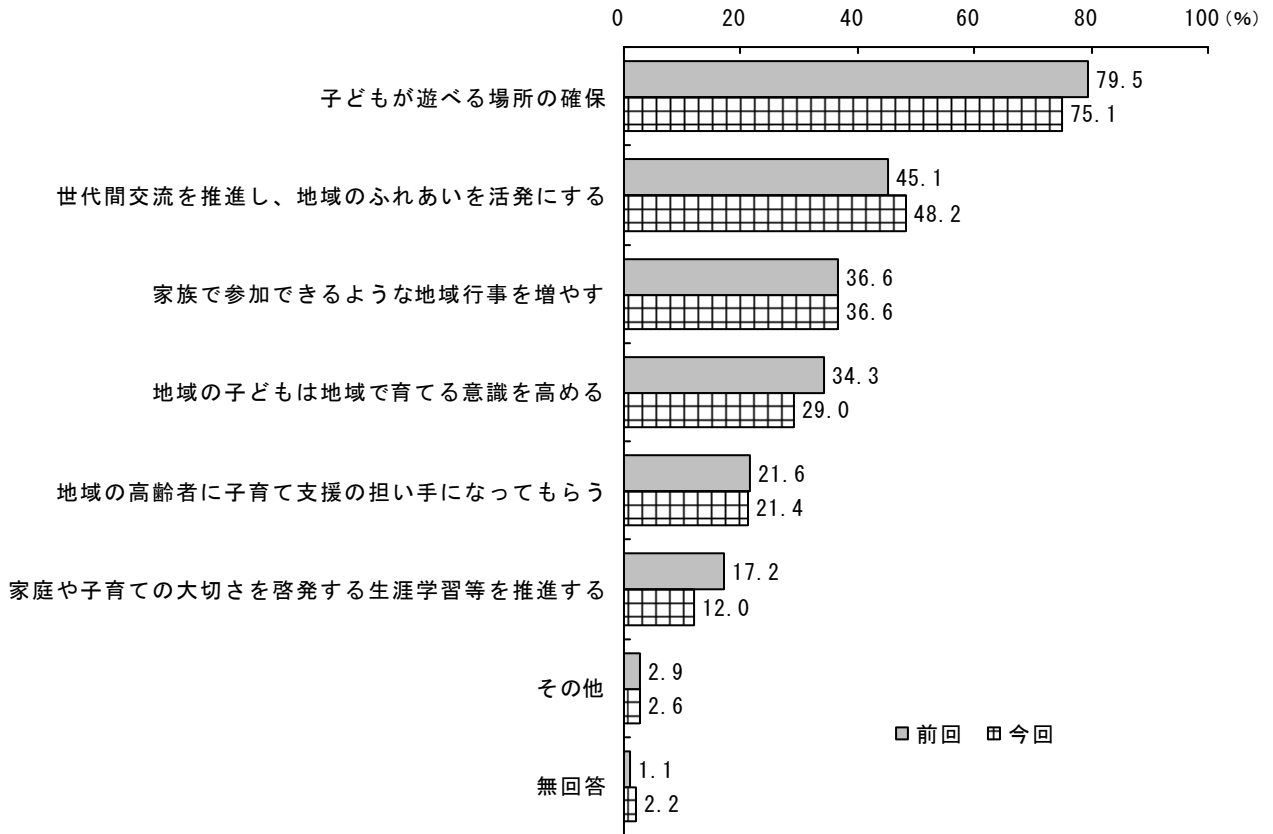
全体の回答について、地域全体で子どもを育てられているという実感が「ある」の割合は、前回は24.0%、今回は32.2%と8.2ポイント増加している。



(2) 地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なこと

地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なことについて、「子どもが遊べる場の確保」が 75.1%で最も高く、次いで「世代間交流を推進し、地域のふれあいを活発にする」(48.2%)、「家族で参加できるような地域行事を増やす」(36.6%)、「地域の子どもは地域で育てる意識を高める」(29.0%) などが続いている。

【図 6-4 地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なこと】



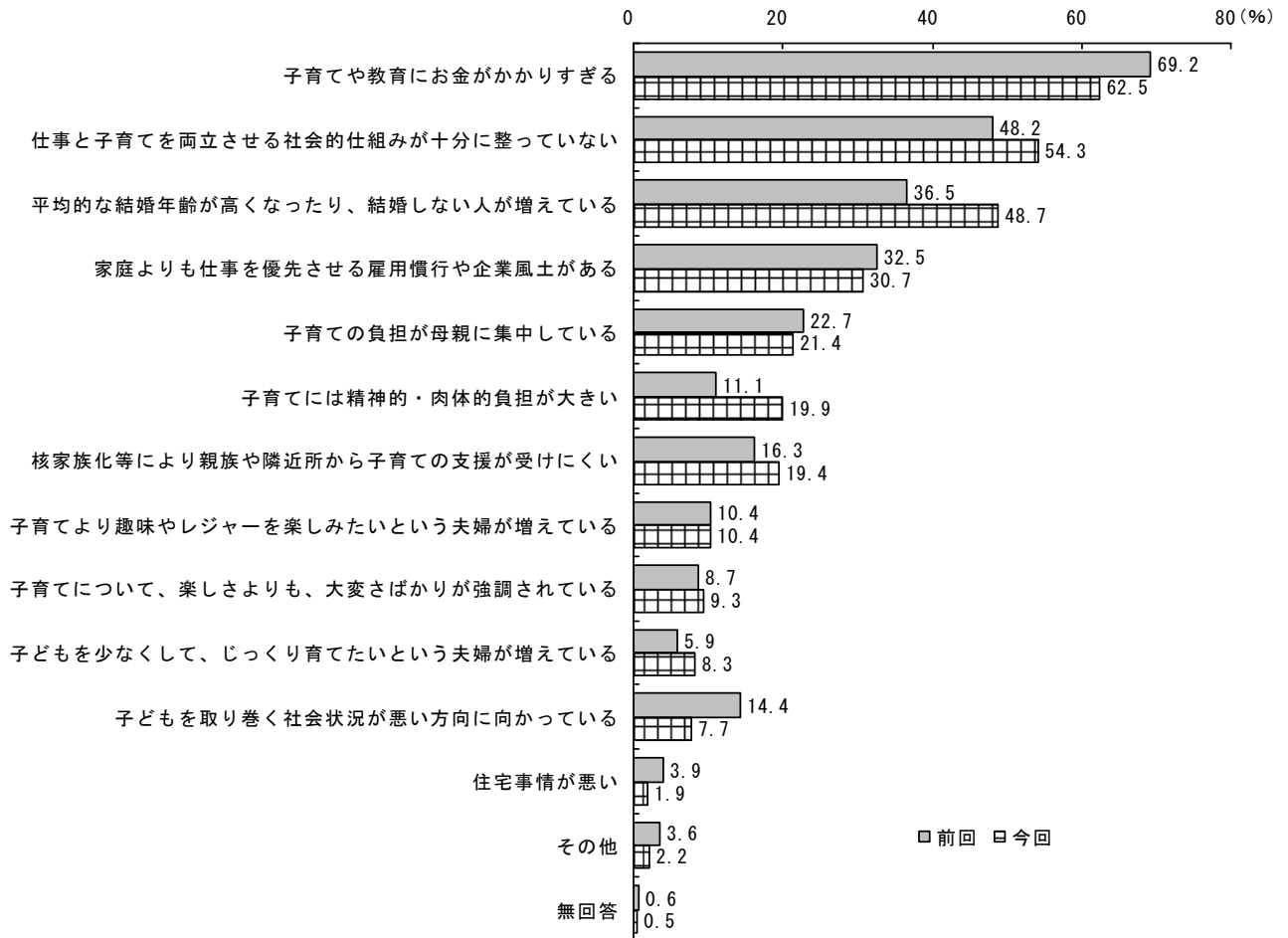
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、上位項目にほとんど変化はみられない。

(3) 出生率が低下している原因について

出生率が低下している原因について、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が 62.5%で最も高く、次いで「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていない」(54.3%)、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている」(48.7%)、「家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある」(30.7%)などが続いている。

【図 6-5 出生率が低下している原因】



前回調査との比較

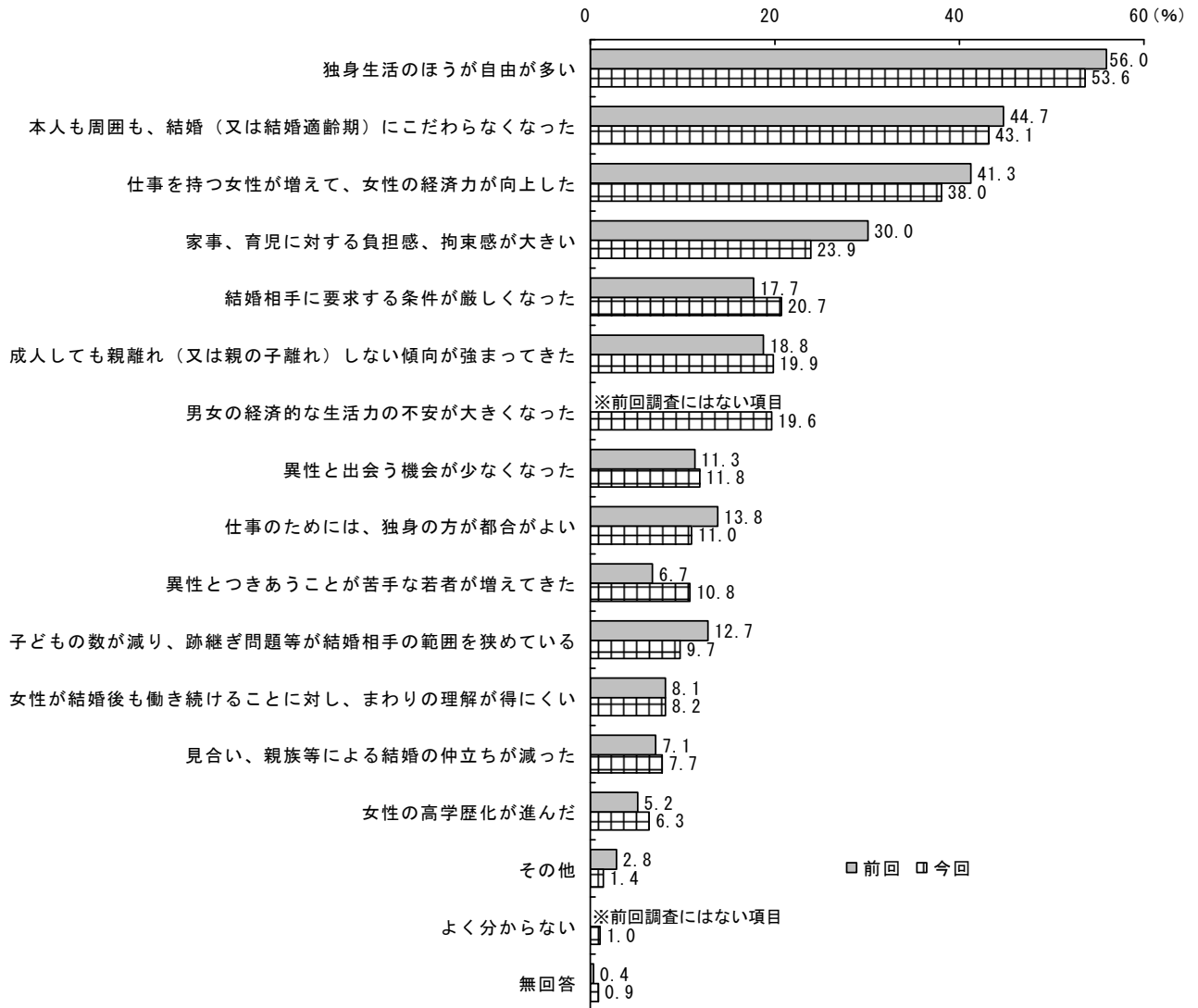
前回の調査と比較すると、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている」の割合は、前回は 36.5%、今回が 48.7%と 12.2 ポイント増加している。

また、「子育てには精神的・肉体的負担が大きい」の割合も、前回は 11.1%、今回が 19.9%と 8.8 ポイント増加している。

(4) 晩婚化、非婚について

晩婚化や非婚の原因について、「独身生活のほうが自由が多い」が53.6%で最も高く、次いで「本人も周囲も、結婚（又は結婚適齢期）にこだわらなくなった」（43.1%）、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」（38.0%）、「家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい」（23.9%）などが続いている。

【図 6-6 晩婚化や非婚の原因】



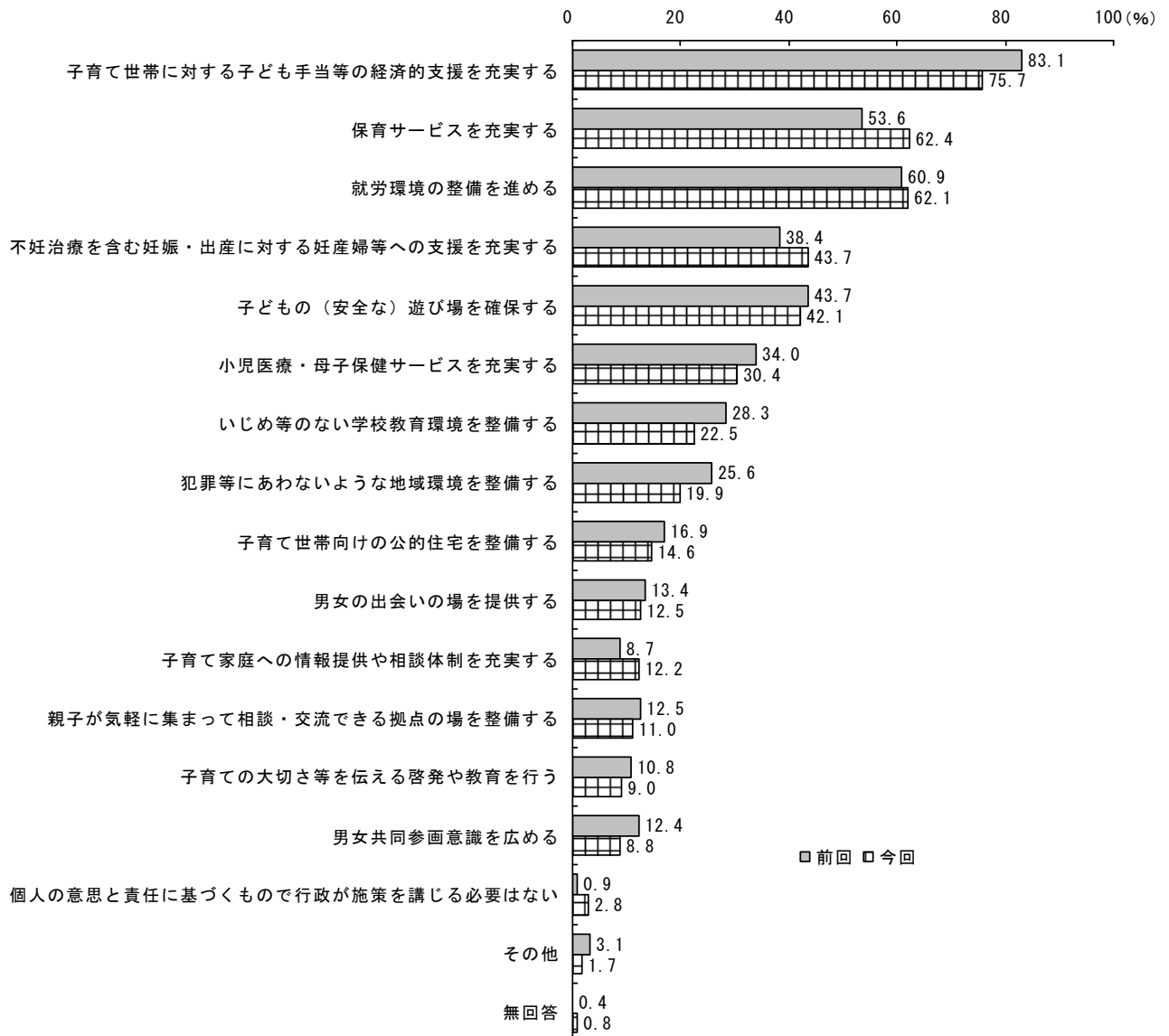
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい」の割合は、前回は30.0%、今回は23.9%と6.1ポイント減少している。

(5) 少子化に歯止めをかけるために必要な政策について

少子化に歯止めをかけるために必要な政策について、「子育て世帯に対する子ども手当等の経済的支援を充実する」が75.7%で最も高く、次いで「保育サービスを充実する」(62.4%)、「就労環境の整備を進める」(62.1%)、「不妊治療を含む妊娠・出産に対する妊産婦等への支援を充実する」(43.7%)、「子どもの(安全な)遊び場を確保する」(42.1%)などが続いている。

【図 6-7 少子化に歯止めをかけるために必要な政策】



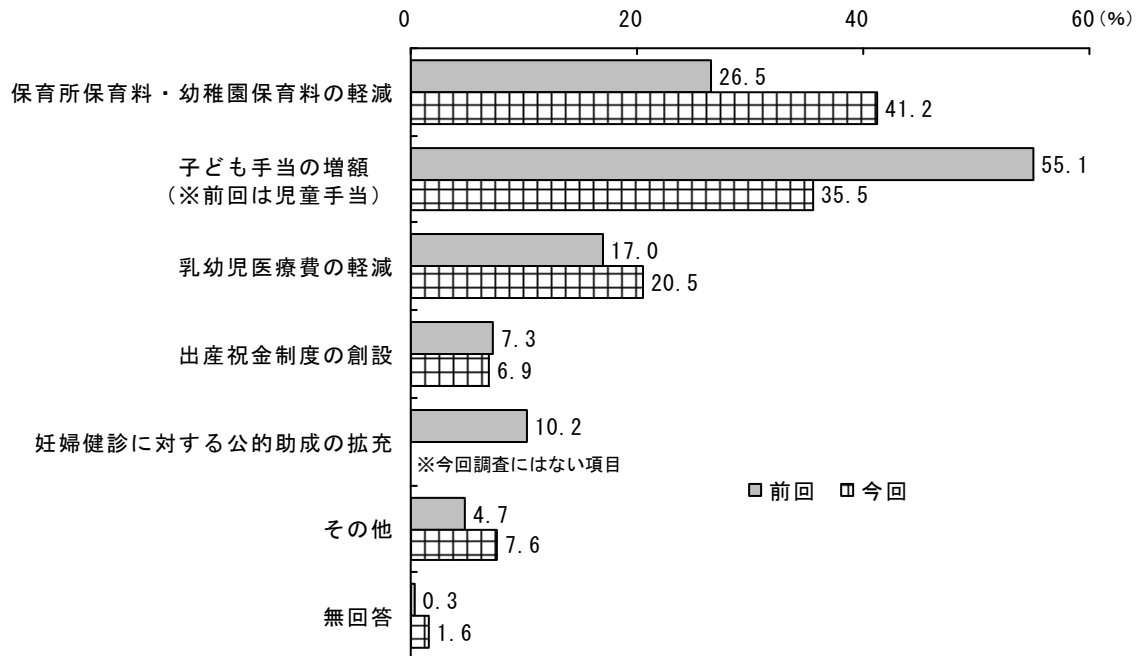
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「保育サービスを充実する」の割合は、前回は53.6%、今回が62.4%と8.8ポイント増加している。

(6) 経済的支援策として望むもの

少子化に歯止めをかけるために必要な政策として「経済的支援が必要」と答えた人に具体的な経済的支援策をたずねたところ、「保育所保育料・幼稚園保育料の軽減」が41.2%と最も高く、次いで「子ども手当の増額」(35.5%)、「乳幼児医療費の軽減」(20.5%)、「出産祝金制度の創設」(6.9%)の順となっている。

【図 6-8 経済的支援策として望むもの】



前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「保育所保育料・幼稚園保育料の軽減」の割合は、前回は26.5%、今回が41.2%と14.7ポイント増加している。

7. いきいきこどもプランの主な取り組みについて

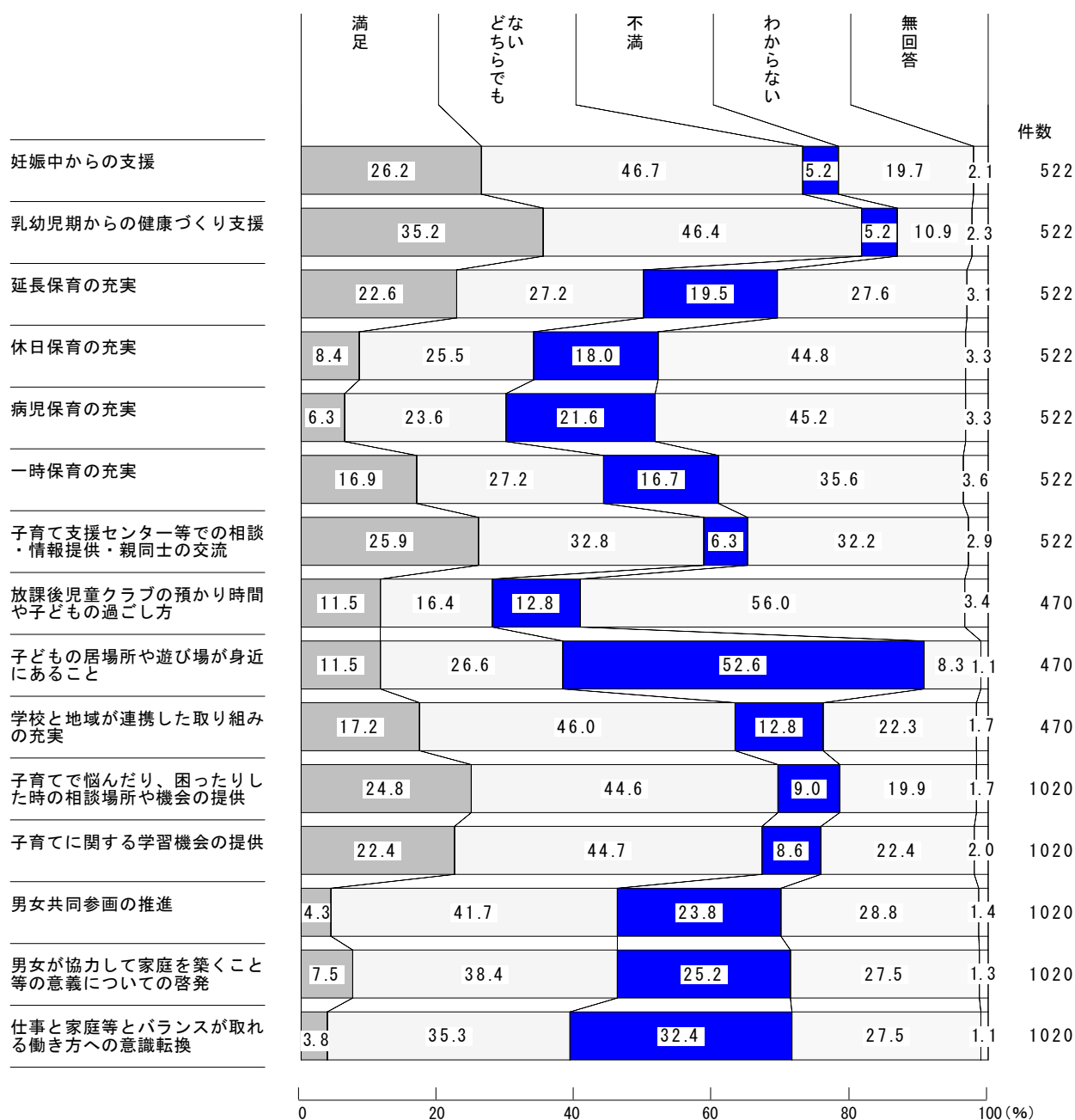
(1) 子育て支援に関する取り組みの満足度と重要度

◆満足度

子育て支援施策に関する満足度について、「乳幼児期からの健康づくり支援」では「満足」の割合が 35.2%で最も高くなっている。「妊娠中からの支援」、「延長保育の充実」、「子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流」、「子育てで悩んだり、困ったりした時の相談場所や機会の提供」、「子育てに関する学習機会の提供」も「満足」の割合が2割を超え、他の項目に比べて高くなっている。

一方で、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」では「不満」の割合が5割を超え、他の項目に比べて高くなっている。

【図 7-1 子育て支援施策の満足度】



前回調査との比較

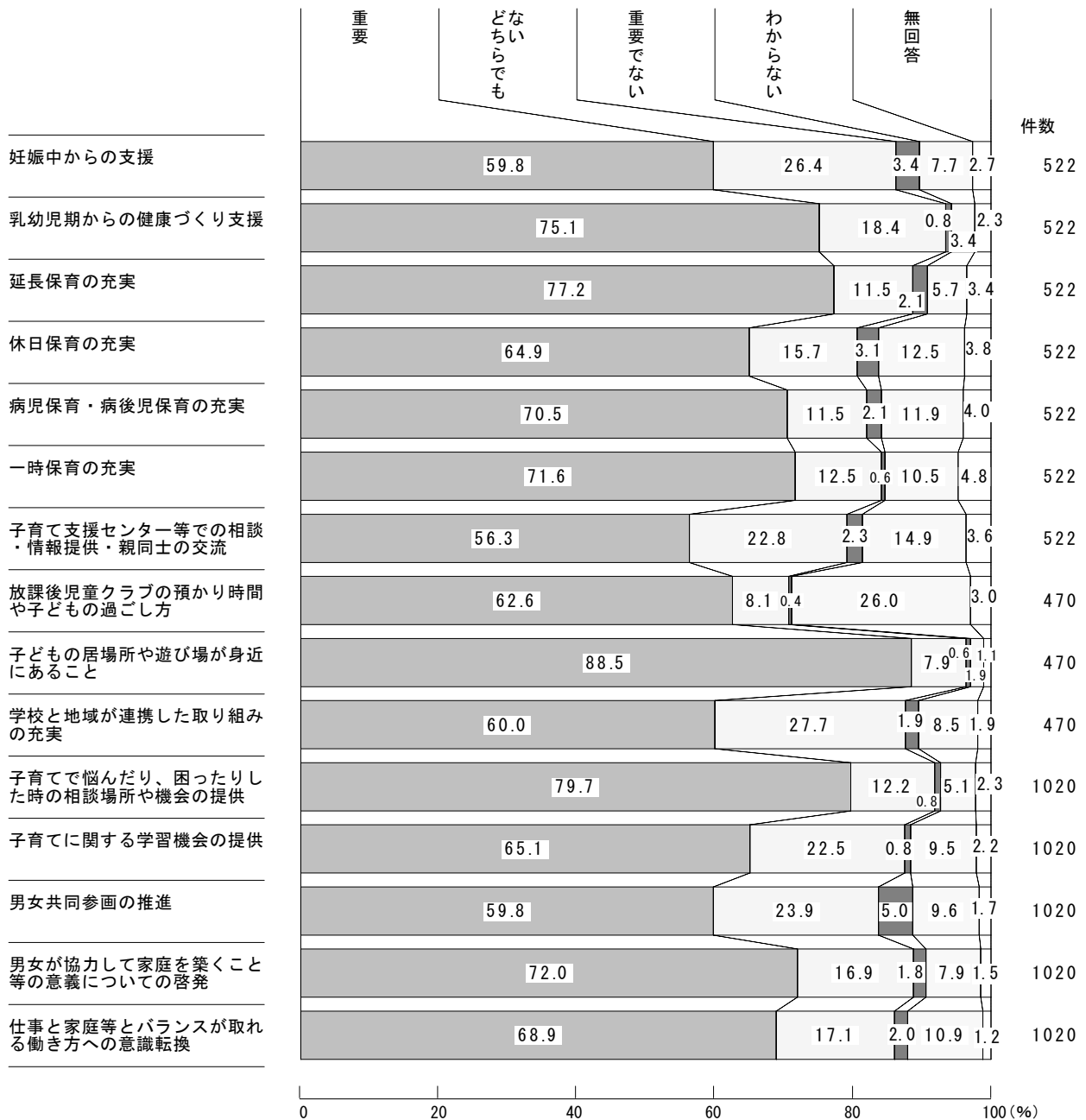
前回の調査と比較すると、「妊娠中からの支援」では「満足」の割合が、前回は 20.7%、今回は 26.2%と 5.5 ポイント増加している。

◆重要度

子育て支援施策に関する重要度について、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」では「重要」の割合が 88.5%で最も高くなっている。「乳幼児期からの健康づくり支援」、「延長保育の充実」、「病児保育・病後児保育の充実」、「一時保育の充実」、「子育てで悩んだり、困ったりした時の相談場所や機会の提供」、「男女が協力して家庭を築くこと等の意義についての啓発」も7割を超え他の項目に比べて高くなっている。

すべての項目で「重要」の割合が5割を超えて最も高くなっている。

【図 7-2 子育て支援施策の重要度】



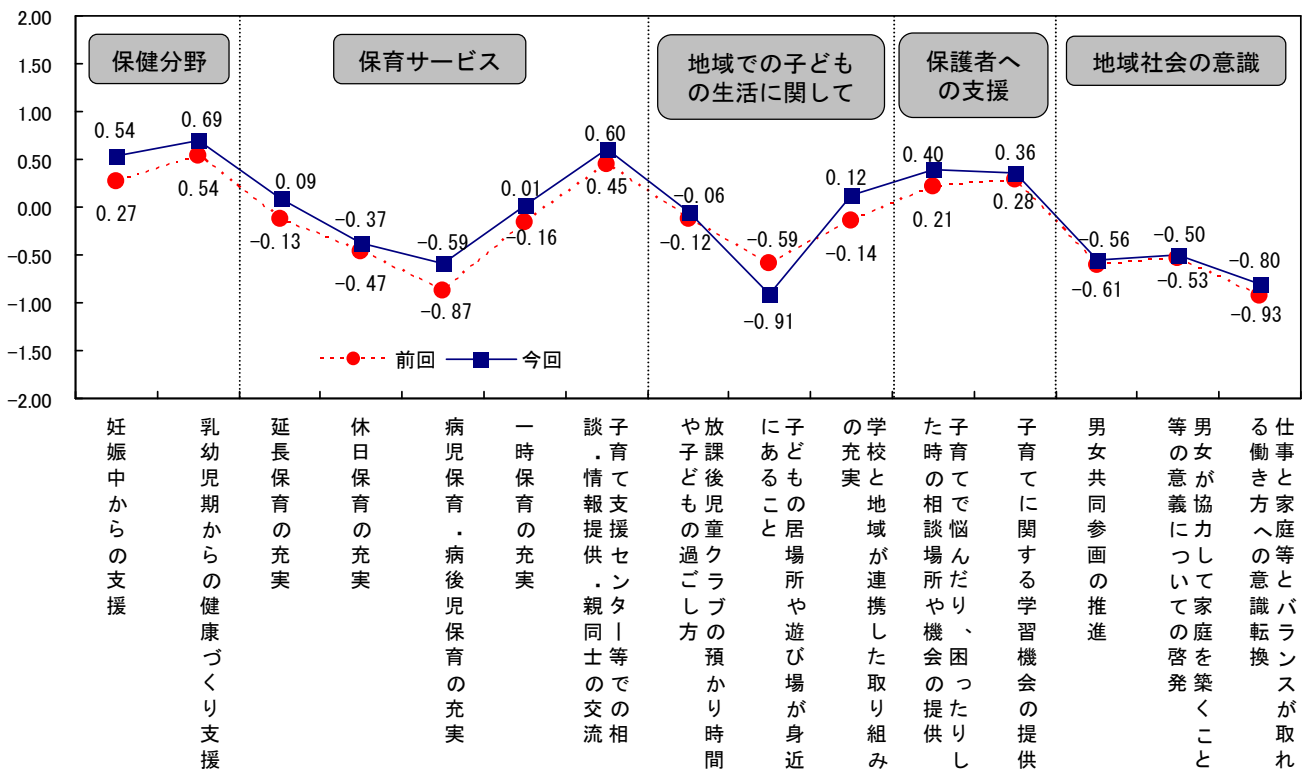
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「一時保育の充実」の割合は、前回は 67.3%、今回は 71.6% と 4.3 ポイント増加している。

◆満足度の評価点

「満足」「どちらでもない」「不満」の評価に、3段階の評価点を与え（「満足」2点、「どちらでもない」0点、「不満」-2点）、その平均点を算出した結果、最も得点が高いのは、「乳幼児期からの健康づくり支援」が0.69点、次に「子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流」で0.60点、「妊娠中からの支援」が0.54点となっている。一方、最も得点が低いのは「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」が-0.91点、次に「仕事と家庭等とバランスが取れる働き方への意識転換」で-0.80点となっている。

【図 7-3 子育て支援施策の満足度評価点】



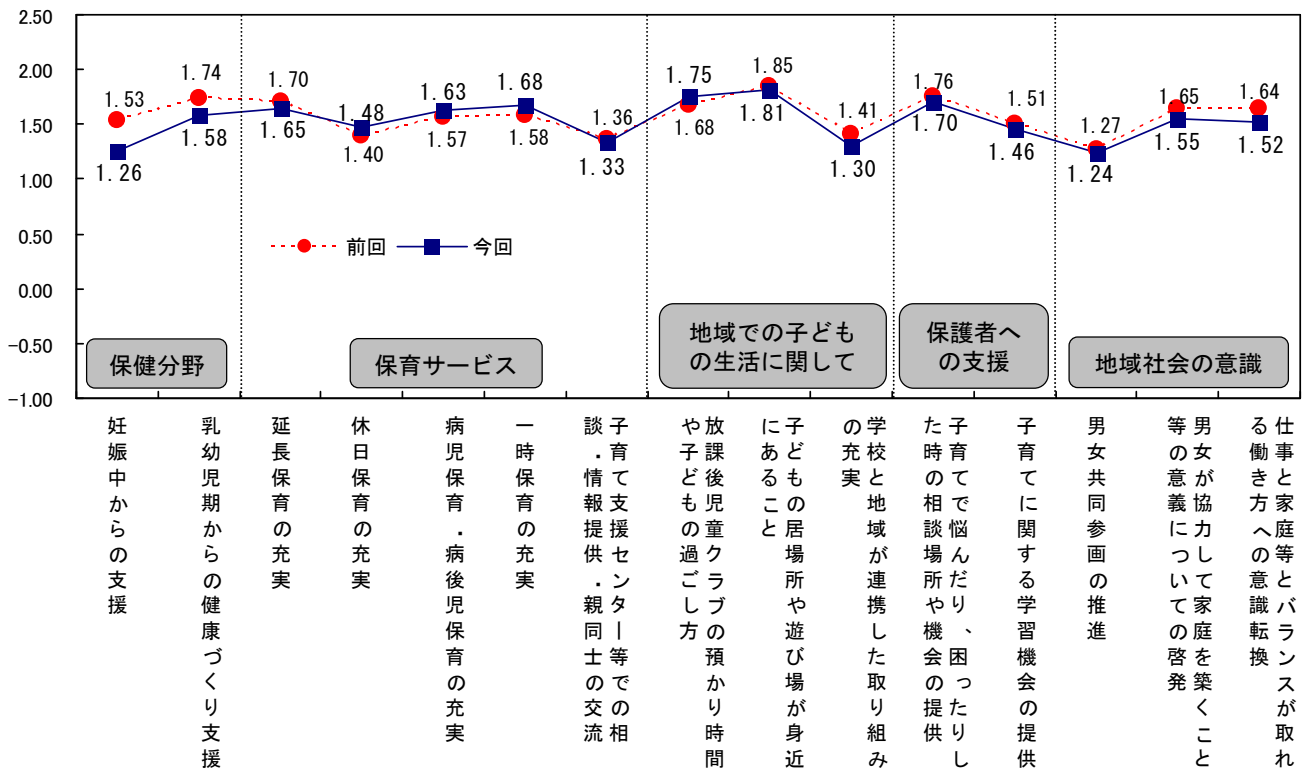
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」を除くすべての項目で満足度があがっている。

◆重要度の評価点

「重要」「どちらでもない」「重要でない」の評価に、3段階の評価点を与え（「重要」2点、「どちらでもない」0点、「重要でない」-2点）、その平均点を算出した結果、最も得点が高いのは、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」で1.81点、次に「放課後児童クラブの預かり時間や子どもの過ごし方」が1.75点、「子育てで悩んだり困ったりした時の相談場所や機会の提供」が1.70点となっている。

【図 7-4 子育て支援施策の重要度評価点】

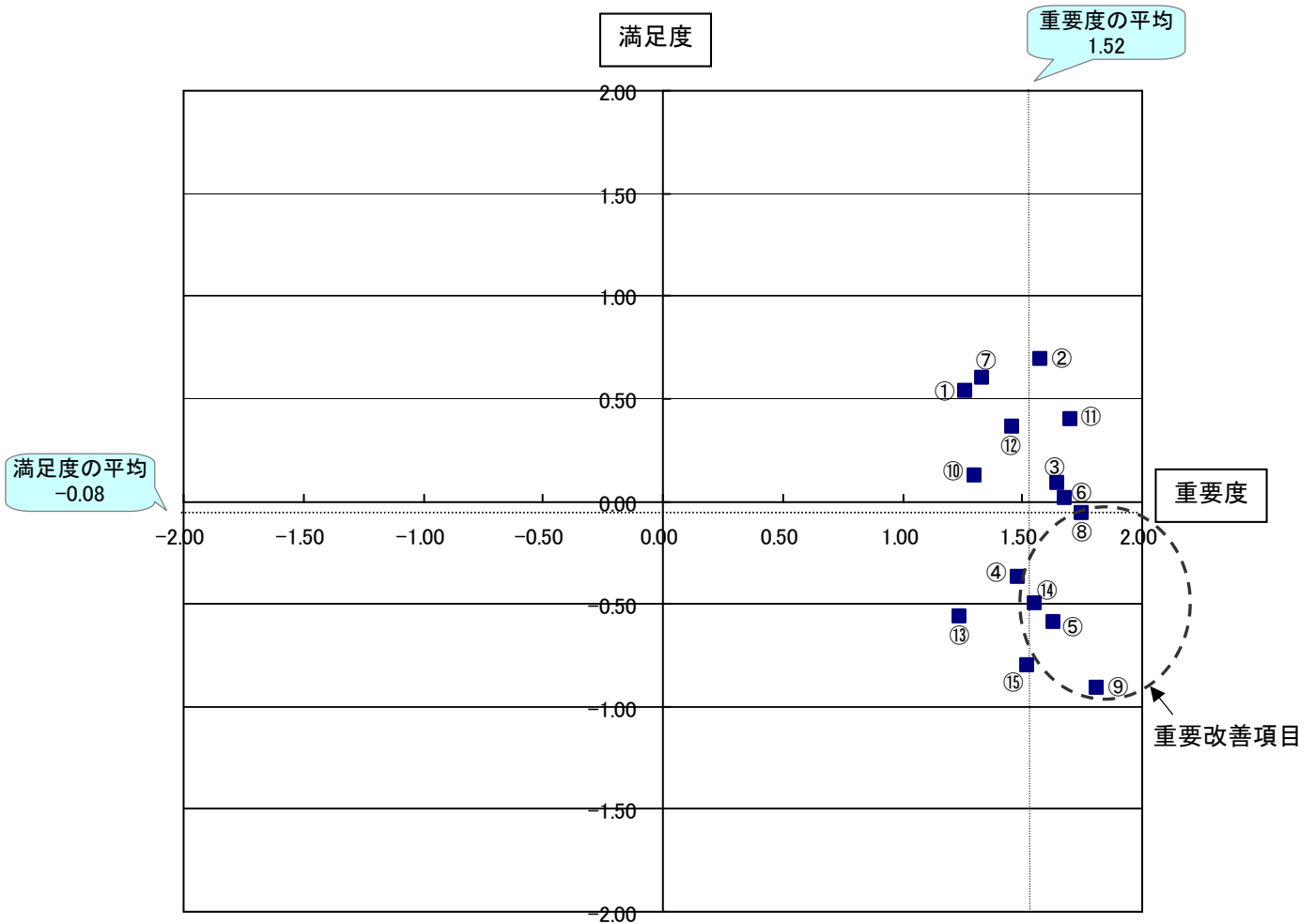


前回調査との比較

前回の調査と比較すると、「妊娠中からの支援」、「乳幼児期からの健康づくり支援」、「仕事と家庭等とバランスが取れる働き方への意識転換」の項目では重要度が下がっている。

◆重要度と満足度の相関

満足度と重要度の相関をみると、「⑤病児保育・病後児保育の充実」「⑧放課後児童クラブの預かり時間や子どもの過ごし方」「⑨子どもの居場所や遊び場が身近にあること」「⑭男女が協力して家庭を築くこと等の意義についての啓発」の4項目が、満足度が低く重要度が高い位置に分布しており、重要改善項目であるということがわかる。



- ①妊娠中からの支援（維持）
- ②乳幼児期からの健康づくり支援（重点維持）
- ③延長保育の充実（重点維持）
- ④休日保育の充実（注意）
- ⑤病児保育・病後児保育の充実（重要改善）
- ⑥一時保育の充実（重点維持）
- ⑦子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流（維持）
- ⑧放課後児童クラブの預かり時間や子どもの過ごし方（重要改善）
- ⑨子どもの居場所や遊び場が身近にあること（重要改善）
- ⑩学校と地域が連携した取り組みの充実（維持）
- ⑪子育てで悩んだり、困ったりした時の相談場所や機会の提供（重点維持）
- ⑫子育てに関する学習機会の提供（維持）
- ⑬男女共同参画の推進（注意）
- ⑭男女が協力して家庭を築くこと等の意義についての啓発（重要改善）
- ⑮仕事と家庭等とバランスが取れる働き方への意識転換（注意）